

2017. 春号
vol.36
[インキュビー]

incu・be

特集

だから私は、
このベンチャーに決めた
〜新入社員と創業者のガチトーク〜



第36回

リバネス研究費 募集要項発表!!

- 池田理化再生医療研究奨励賞
- 超異分野教育賞
- 海底探査推進特別賞
- 留学生賞
- クラレ賞
- L-RAD賞

incu・be

インキュビー vol.36

『incu・be』は、自らの未来に向かって主体的に考え行動する、理工系の若手研究者のための雑誌です。多くの大学・企業とともに、理工系のキャリアを応援します。



Leave a Nest

◆ STAFF ◆

incu・be 編集部 編

編集長 鷲見 卓也

編集 磯貝 里子

上野 裕子

坂本 真一郎

記者 齊藤 想聖

長 伸明

発行人 丸 幸弘

発行元 リバネス出版(株式会社リバネス)

〒162-0822

東京都新宿区下宮比町 1-4

飯田橋御幸ビル 5 階

Tel. : 03-5227-4198

Fax : 03-5227-4199

Web : <https://lne.st>

表紙絵 クリタ ミノリ

DTP 清原 一隆 (KIYO DESIGN)

印刷 合資会社 三島印刷所

◆ 制作に寄せて ◆

今回の特集はずばり「ベンチャー特集」。かく言う私もリバネスというベンチャーで働く身です。取り組む仕事に同じものはひとつとしてなく、常に新しいことを考え続けなければならないのは楽なことではありません。けれども、試行錯誤を繰り返し、新しいことやものを生み出すということは研究と同じ。私や今回の特集に登場する研究者たちがベンチャーという場に立ち続けたいと思うのは、もしかしたら研究者としての性なのかもしれないですね。研究者がその経験を活かせる場合は、大企業やアカデミアだけじゃない。そんなことを改めて感じさせる、今号の『incu・be』制作でした。(鷲見)

◆ 『incu・be』の配布・設置について ◆

『incu・be』は全国の理系大学・大学院の学生課・就職課・キャリアセンター等で配布しております。学校単位での配布・設置をご希望の場合は incu-be@lne.st までご連絡ください。また、Amazon ならびに全国書店でご購入いただくこともできます。

Contents

■ あなたの知らない!? 私の大学

3 第4回 東京都市大学 自信を持って挑戦できる人材を育てる

■ 特集 だから私は、このベンチャーに決めた ～新入社員と創業者のガチトーク～

6 「僕もあれがやりたかったのに」という後悔はしたくないから
(株式会社人機一体)

8 研究思考が、世界を変えるものづくりを加速する
(株式会社 DG TAKANO)

10 研究者だからできるビジネスがある。研究者だから起こせる革新がある。
(エルピクセル株式会社)

■ EVENT INFORMATION

12 第6回超異分野学会 本大会

14 第2回 TECH PLANTER Meetup

■ 探しに行こう自分の場所

20 独自性を武器に、3,000 万年を飛び越えろ!
(近畿大学バイオコークス研究所 井田 民男さん)

21 異分野とのコミュニケーションこそ、道を拓くチャンス
(東急建設株式会社 荒川 竜太さん)

22 人と人をつなげるために「自分」が分野や組織の壁を超えていく
(個人事業主 阿部 拓也さん)

■ 研究キャリアの相談所

23 研究始めたらすぐに登録! 研究キャリアの相談所のご案内

24 募集中の求人情報

25 incu・be セミナー 第4回 博士が異分野の企業で働くってどんな感じ?

■ リバネス研究費

26 第36回リバネス研究費募集要項発表!!

■ リバネスは仲間を募集しています!

28 株式会社リバネスのインターンシップ

29 SBL 取得者インタビュー 世界を変える研究者を増やすリーダー
(戸金 悠)

30 株式会社リバネス入社までの道のり

あなたの知らない!? 私の大学

日本に700校以上ある大学。教育にかける想いや理念、情熱も大学の数だけある。外から見ているだけではなかなかわからない大学の個性や特色を、大学トップの言葉から紐解いていきます。



第4回 東京都市大学

自信を持って挑戦できる 人材を育てる

土木、電気、原子力などのエネルギー研究などで、80年以上にわたり日本の工業化を支えてきた研究大学である武蔵工業大学を前身に持つ東京都市大学。総合大学となり「都市研究の都市大」を掲げる今、都市大が力を入れるのは複雑化する都市の課題を解決する人材育成だ。その取り組みの先頭に立つ三木千壽学長に話を伺った。



都市の高齢化に備えよ

2009年、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合し、校名を改め誕生した東京都市大学。同時に都市生活学部および人間科学部を開設した同学で、2015年より学長を務めているのが三木千壽学長だ。橋に使われる鋼の老朽化に関する研究で博士号を修め、国内外の橋の調査や設計に携わった三木学長は「橋の臨床医」とも呼ばれるインフラ診察のプロ。アメリカのリーハイ大学の研究員時代にはアメリカ中の橋を多数調査し、荒廃するアメリカのインフラを目の当たりにしたという。「日本の橋梁や建造物の行く末を案じました」と振り返る三木学長は、その危機感を、今は東京という都市そのものに感じている。「東京はあらゆるものが高齢化しています。インフラや建造物だけでなく、人の年齢も増していき、これまで起きなかった新たな課題が次々と生じることが予想されます。東京高齢化の問題を解決して、新しい都市『東京』を創造することができる人材が育つ大学にしたい」と東京都市大学のビジョンを語る。

挑戦できる人材が、新しい東京を担う

未知の課題に取り組み、新しい「東京」を創る。そこに正解はない。だからこそ自由な発想ができる人材が必要だと三木学長は話す。一方で同氏は、これからの時代を担う学生たちの置かれる状況に、ある課題意識を抱

いている。

「失敗できない、と挑戦を避ける風潮がある。しかし、リスクを恐れずに未知の世界に飛び出して視野を広げた人材だけが、新しい発想を生み出し、未来を創ることができる。学生たちに一歩踏み出す自信を持たせる機会が、今の教育に必要なのです」。そう考え三木学長が新しく始めた取り組みが、Tokyo City University Australia Program (TAP)だ。TAPは、オーストラリアのエディスコーワン大学において5か月間の留学を行うもので、学部2年生のうち200名以上が参加する大規模なプログラムだ。1つの大学へこれほどの人数を留学させる例は他にない。滞在中はエディスコーワン大学の学生と寮生活をともにさせるなど、異文化交流にも力を入れる。「留学に行って日本人同士で過ごしてしまっただけでは意味がありませんからね」と三木学長は口元をほころばせた。

未来の都市を担う人材が 飛び立つ場所になる

TAPの大きな特徴は、留学に先立ち1年間

にもわたって行われる英語の予備教育にある。週5日間、トータルで100日間にわたるネイティブ講師による講座も開かれる徹底ぶりだ。この事前講座は、かつて自身が留学した際に、英語が「読めない、聞けない、話せない」と苦しんだという三木学長こそそのアイデアだ。「あらかじめ英語力を身に付かせることは、海外でも学ぶことができるという自信につながります。オーストラリアでの5か月間は単なる語学留学ではありません。言語という壁を越えた、という成功体験になり、さらに新たな挑戦へと彼らを誘ってくれるでしょう」と胸を張る。

日本の工業化、東京の発展を支えてきた前身、武蔵工業大学の誕生から再来年で90周年を迎える東京都市大学。TAPに参加した学生が社会に巣立ち始めるのもその頃だ。エネルギー分野を中心に長年培われてきた研究力に加えて、リスクを恐れずに挑戦するチャレンジ精神を備えた都市大生たちは、どんな活躍を見せてくれるのだろうか。

取材を終えて

取材を通じて、TAPにかかる「大学で過ごす時間を活用してほしい」「失敗を恐れぬ人になってほしい」という学長の強い想いが感じられました。研究設備、立地の良さなど都市大の特徴は多くありますが、大学教育にける熱意も溢れる東京都市大学。今後も目が離せません！
(文 鷲見 卓也)

大学DATA 東京都市大学 (私立大学・1929年創立)

東京都世田谷区に2キャンパス、神奈川県横浜市に1キャンパスを構える総合大学。前身は1929年に武蔵高等工科学校として創立された武蔵工業大学と、1938年に東横商業女学校として創立された東横学園女子短期大学であり、両学が2009年に統合して誕生した。現在、工学部・知識工学部・環境学部・メディア情報学部・都市生活学部・人間科学部の6学部を擁し、電気・建築・土木分野の研究においては武蔵工業大学創立から長い伝統を持つ。2016年には総合研究所内に未来都市研究機構を設置し、今後の都市を支える技術・制度開発に注力している。

知識プラットフォーム参加企業



研究応援プロジェクト

私たち株式会社リバネスは、知識を集め、コミュニケーションを行うことで新しい知識を生み出す、日本最大の「知識プラットフォーム」を構築しました。教育応援プロジェクト、研究応援プロジェクト、創業応援プロジェクトに参加する多くの企業の皆様とともに、このプラットフォームを拡充させながら世界に貢献し続けます。



株式会社吉野家



日本たばこ産業株式会社



三井化学株式会社



協和発酵キリン株式会社



オリンパス株式会社



森下仁丹株式会社



株式会社IHI



株式会社池田理化



日本ホール株式会社



株式会社オンチップバイオテクノロジーズ



日本マイクロソフト株式会社



株式会社プロトコーポレーション



アサヒ飲料株式会社



株式会社アトラス



アルテア技研株式会社



株式会社インターテキスト



株式会社ウイダムアカデミー



ウノ電機株式会社



SMBC日興証券株式会社



株式会社オークファン



オムロン株式会社



オリエンタルモーター株式会社



オリックス株式会社



川崎重工業株式会社



カンロ株式会社



クラシエフーズ株式会社



株式会社クラレ



株式会社グローカリンク



KEC教育グループ



コニカミノルタ株式会社



サントリーグローバルバージョンセンター株式会社



株式会社G-クエスト



シーコム・ハクホー株式会社



株式会社JCU



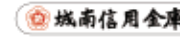
株式会社ジェイテクト



数島製パン株式会社



株式会社シグマクス



城南信用金庫



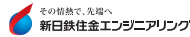
株式会社 THINKERS



株式会社シンク・デザイン



株式会社新興出版社啓林館



新日鉄住金エンジニアリング株式会社



新日本有限責任監査法人



株式会社神明



株式会社 SCREEN ホールディングス



Selfwing Vietnam Co.,Ltd.



大日本印刷株式会社



株式会社タカラトミー



多摩川精機株式会社



THK 株式会社



DIC 株式会社



D.C.TRAINING JAPAN 株式会社



株式会社テクノバ



東洋ゴム工業株式会社



東レ株式会社



株式会社常盤植物化学研究所



凸版印刷株式会社



株式会社巴商会



株式会社ニッピ



日本ユニシス株式会社



パーク24株式会社



株式会社はなまる



株式会社浜野製作所



ビクトリノックス・ジャパン株式会社



株式会社日立ハイテクノロジーズ



富士ゼロックス株式会社



富士フィルム株式会社



ボンサイラボ株式会社



本田技研工業株式会社



株式会社マイクロテック・ニチオン



三井製糖株式会社



三井不動産株式会社



三菱ガス化学株式会社



株式会社メタジェン



森永乳業株式会社



山芳製薬株式会社



ヤンマー株式会社



株式会社ユーグレナ



株式会社吉野家ホールディングス



リアルテックファンド



ロート製薬株式会社

特集

だから私は、 このベンチャーに決めた

～新入社員と創業者のガチトーク～

大学や企業で生まれた技術シーズをもとに新しい製品やサービスを開発、それによって社会課題の解決を目指すテクノロジーベンチャーが今、その勢いを増しています。

ここは、研究経験の中で仮説検証能力を培ってきた研究者にとってそのスキルやノウハウが活かせる絶好の場所。

実際に、ベンチャーが掲げるビジョンや創業者の魅力に惹かれ仲間に加わる研究者も出てきました。

彼らは、どんなきっかけで、そのベンチャーと出会ったのでしょうか。多くの企業がある中で、どうしてそのベンチャーを選んだのでしょうか。そして、彼らを仲間に加えたベンチャー企業は、彼らに何を期待しているのでしょうか。

新入社員と創業者による真剣な対談——ガチトークからは、どちらかだけへの取材では聞き出すことのできなかつたその会社の本当の魅力に触れることができました。

そこは、アカデミアでもなく、大企業でもない、研究者にとっての新たな挑戦の場。世界を変えるテクノロジーベンチャーで働く、という選択肢をあなたのキャリアパスにも加えてみませんか。

P6 「僕もあれがやりたかったのに」という後悔はしたくないから
(株式会社人機一体 金岡博士×ソン ナンナンさん)

P8 研究思考が、世界を変えるものづくりを加速する
(株式会社DG TAKANO 高野 雅彰さん×サンカール ゴードさん)

P10 研究者だからできるビジネスがある。研究者だから起こせる革新がある。
(エルピクセル株式会社 島原 佑基さん×管原 皓さん)

「僕もあれがやりたかったのに」という後悔はしたくないから



株式会社人機一体

第2回 TECH PLANTER Meetup に登壇します (詳細はP14)

開発部

ソン ナンナン さん

プロフィール

中国生まれの日本育ち。1999年にカナダへ移住し、ウォータールー大学でメカトロニクスを専攻、修士号を取得。2012年、再度日本に移住し日本ナショナルインスツルメンツ株式会社に入社、技術とマーケティングを担当した。2015年に金岡博士と出会い、2016年3月、株式会社人機一体に転職。一番好きなロボットはZガンダム。購入したがまだ組み立てていないプラモデルは100箱以上ある。

代表取締役 社長

金岡博士

プロフィール

専門は、パワー増幅ロボット、マスタスレーブシステム、飛行ロボット等。マンマシンシナジーエフェクタ (人間機械相乗効果器) という概念を独自に提唱し、十年来一貫して、その実装技術を研究・蓄積してきた。2007年、株式会社人機一体の前身であるマンマシンシナジーエフェクタ株式会社を設立。2015年より現職。また、立命館大学 総合科学技術研究機構 ロボティクス研究センター 客員教授も務める。博士(工学)。

「ロボットの本質的な価値は、人間とのコミュニケーションや人間の真似ではなく、人を超える力学的機能にある」という考えを貫き、人型重機によって世界中からフィジカルな苦役をなくそうと研究・開発に取り組む株式会社人機一体。社員第1号として入社したソン ナンナンさんは、代表を務める金岡博士とロボットを見て「この組み合わせは絶対間違いない」と確信したという。

ロボット開発を進めるためなら。 採用への抵抗が和らいだ

金岡 ソンと初めて会ったのは、「ニコニコ超会議」の会場ですね。展示するロボットにトラブルがあって技術サポートに電話をしたら、ソンが来てくれた。

ソン 当時は、人機 (人機一体社の略称) のロボットに使われている部品メーカーに勤めていました。マーケティング部で、自

社の製品が使われた最近の事例や面白い話題を調べていたときにたまたま見て、人機のことは知っていました。金岡先生からサポート依頼があったことを、技術サポートに所属していた友人が「これはソンが絶対に好きだろう」と教えてくれたんです。人機のロボットを実際に見てみたくて、彼から無理やり仕事を奪ってサポートに行ったんです。

金岡 終電ギリギリまで一緒にがんばって

くれて、トラブルを解決することができました。その時が初対面でしたが、極限状態で一緒に働いて課題を解決したことで、この人が人機に来てくれたら、人機は強くなると確信しました。でも、人を私の夢に巻き込んで、人生を左右していいのかな、という思いがいつもあるので、私はあまり強く誘うことはできないんです。「来てほしいんだけどなあ〜」というオーラを出す。

ソン そうでしたね。僕も最初は会社を辞

めるとまでは考えておらず、今後も協力したいな、という程度でした。でも、もともと大学～大学院でメカトロニクスを専攻していてロボットは好きでしたし、新しい技術を学んだり実際にものを作ったりする仕事をしたいなと考えるようになって。人機ならそういうことができるだろうと思って転職を決意しました。

金岡 私はずっと1人でやっていましたから、それに慣れていたし、それが当たり前だと思っていました。ソンの技術者として入ってもらったことで、人に協力してもらう、チームとして一緒にやるというのはこういうことか、と改めて気づきましたね。ロボット開発を加速するためには、もっと積極的に人を採らないといけないな、と思えるようになった。これが、ソンが来てくれて起きた一番大きな変化ですね。

「巨大ロボットを作る」という自分の仕事を誇れるか

ソン 先生から事前に聞いていた仕事の内容は期待通りでした。ロボットを作るためには部品選定、設計、プログラミング、組立等、本当にいろいろなことをしないといけないのですが、僕は1つのことに集中してやるよりも、いろんなことに手を出したいんです。ベンチャーってそういう機会が多いと思うんですね。こういうことを解決しないとイケないんだけど、誰の仕事っていうのが決まっていない。それを自分から掴みにいくことができるんです。



金岡 ロボットを作るというのはいろいろな知識の寄せ集め、「インテグレーション」なので、自分の専門や得意分野というのがあったとしても、他のところを知っているのと知らないのでは、インテグレートしたときの出来が違う。例えば、部品選定して設計して、と順序良く進むわけではなく、部品選定のためには設計の知識が必要で、設計のためには部品選定の知識が必要。全てが関連している。

ソン 僕の専門はメカトロニクスで、それ自体がいろいろな要素を含んでいます。なので、知識は広く浅くもっています。必要になったら深く調べれば良い。

金岡 それから、ロボットを作るからには、ロボットへの夢を共有できる人と一緒に仕事をしたいですね。ソンはロボットオタク的にロボットが好きだ、というのがベースにあると思うんですが、それに加えて「こういう場面にロボットがあったらいいよね」「そのロボットができれば確かにすごいよね」という思いに心から共感できる人。機械に対する親和性、憧れ……そこに自らの人生を託せるかどうか。

ソン それって、自分で作ろうとしているものを信じている、心から好きだと言える、ということなんじゃないでしょうか。自分の会社の製品がそんなに好きじゃない、というのは、ベンチャーで働くには致命的だと思います。

夢を夢のままにしない。会社を、自分の夢を叶える土台にする

金岡 今のところ会社の顔として前に出ているのは私だけです。今はそれでいいのですが、それでは「層が薄い」んですね。私のキャラクターだけで保っているのだとしたら、それは単に「私」であって、人機という「チーム」の力ではない。会社としての強さを出すには、やはり層の厚さが重要になってくる。だから、技術に深く関わっているソンがもう一歩踏み出して、自分の



名前ですら仕事ができるようになってくれたら、と思っています。「人機にはソンという技術者がいて、彼がこんなすごいロボットを作ったんだよ」と言える、言われるようにしたい。
ソン 確かに、それはやりたいですね。「すごいものを作っているな、僕もこれに参加できるんだ」と思って人機に入りましたから。それを、もっといろんな人に知ってほしいという思いはあります。数年後に成功して「これは『俺が』作ったんだぞ」と言えるのが、ベンチャーの魅力だと思いますね。
金岡 それですよ。だってね、悔しいですよ？ 誰か他の人が巨大ロボットを完成させて大喜びしている横で「ああ、僕も作りたかったのにな」って指をくわえて見ているのは、巨大ロボットを最初に実用化するのは我々です。だから、そこに関わって「俺が作ったんだ」と言いたい人は人機に来るより他にないですね。

今の人機は、まず私の夢があって、それをみんなで実現するために存在しています。でも、その過程で、ソンが自分の名前で仕事ができるようになったら、人機を踏み台にして、さらに大きな自分の夢を叶えれば良いんです。

ソン 確かに、今は先生の夢に乗っかって、とは思いますが。先生はいつも「社員には自分を超えてほしい」と言っているので、僕もそういうことを見つけていきたいです。

金岡 ソンに限らず、人機の人たちにはみんな、そういうことを考えておいてほしいですね。人機が10年生き延びれば、人機でできることは、今は想像できないほど広がっているはずですので。

(取材・構成 磯貝 里子)

研究思考が、世界を変えるものづくりを加速する



株式会社 DG TAKANO

第2回TECH PLANTER Meetupに
登壇します(詳細はP14)

代表取締役

たかの まさあき
高野 雅彰 さん

プロフィール

1978年、大阪府東大阪市生まれ。神戸大学経済学部卒業後、IT関連会社に就職。3年後に独立し、節水ノズルの開発に着手する。徹底した市場・周辺技術調査、1年以上にわたる製品設計・試作の末、2008年にBubble90を開発。2010年、株式会社DG TAKANOを設立した。

サンカール ゴーダ さん

プロフィール

インド出身。インド工科大学で機械工学を学んだのち、インドの国防関連の企業に勤務し、防衛製品の性能シミュレーション業務に従事した。2014年に東京大学大学院工学系研究科に入学。送電線の挙動解析に関する研究で修士号を取得し、2016年10月、株式会社DG TAKANOに入社した。

高野雅彰社長独自の視点による製品設計と、町工場の持つ高い金属加工技術によって洗浄力を落とさず、使う水の量を90%削減する節水ノズル「Bubble90」を開発した株式会社DG TAKANO。2016年秋に新卒社員としてDG TAKANOに加わったのがサンカール ゴーダさんだ。急成長を遂げるものづくりベンチャーに留学生が惹かれた、そのきっかけに迫った。

世の中を変える製品しか、作らない

高野 ゴーダはインド工科大学を卒業してから企業に就職した後に、東京大学の大学院に入学したんだよね。大学院ではどんな研究をしていたんだっけ。

ゴーダ 土木系の学科の、様々なインフラの耐風性の解析を専門とする研究室に所属していました。中でも私はコンピュータシミュレーションを用いて、雪国などで凍りついた電線の挙動について調べていました。風の強さなどで電線がどう動くのか、どんな箇所が破損しやすいのかを実験で調

べるのは難しいのですが、計算で架空の実験を通して課題解決に近づくことができることに面白さとやりがいを感じていました。

高野 シミュレーションをやってきたという専門性を活かすのであれば、ソフトウェア開発企業や大学でのキャリアも考えられると思うのだけど、その中でDG TAKANOに興味を持ってくれたのはどうしてだったんだろう。

ゴーダ ずっと自分の研究経験を活かして新しいことに挑戦し続けたい、人や世界に貢献したいと考えていたんです。そん

なときに見つけたのがDG TAKANOでした。特に、すでにBubble90というイノベーションな製品で成功したのに、社会課題の解決のためにさらに別の新しいプロダクト開発に力を入れていきたいという点に惹かれました。この会社は世界を変えるんだと感じましたし、その中で自分のこれまでの学びを活かしたいと思ったんです。

高野 課題を解決して世の中を変えるようなものしか、うちは出す気がない。そう思って僕もDG TAKANOを立ち上げた。その考えに共感してもらえたのは本当にうれしかったよね。会って話すうちに、一緒に楽



しく働けるイメージができたんだ。

ゴータ 実は社長に会う前、もっと厳しい人かと想像していました。話してみるととても気さくで、熱意に溢れる人だった。社長の「DG TAKANOにしかできないことをやる」という言葉は強く印象に残っています。直接会って話したからこそ、感じられたことも多かったと思います。

興味を持って自ら動く。

それがベンチャーで活躍する秘訣

高野 入社したのは2016年の秋だったよね。シミュレーションを使って開発を加速させられないかと思ってたときだったので、シミュレーションやプログラミングが得意なゴータがメンバーに加わったのは良いタイミングだった。これまでは工場で実際に作りながら試行錯誤していたから、本当に助かっている。

ゴータ 初めて使うソフトウェアで、しかも日本語版だったけれども、使いながらシミュレーションの仕方を覚えて、翻訳もして……。

高野 そうそう、ソフトウェアと解析してほしい部品を渡したただけだったのに、気がついたら計算をするだけでなく英語版のマニュアルまで作られていてびっくりした。指示していないのに、勝手に進めてくれていた。言われていないことでも、自分で考えて必要だと思ったことを進められるのは、成長速度を大きな武器とするベンチャーで働く上ではとても重要だと思う。自分が興味を持つことに、どんどん挑戦できる人はDG TAKANOでも活躍している。今、興味がある仕事は何？

ゴータ 今、一番力を入れたいのはシミュレーションを使った、製品開発の効率化の研究です。だけど将来的にはDG TAKANOの経営の部分にも携われる人材にもなりたい。そのために海外の競合製品

のリサーチなど、研究以外の新しい仕事にも積極的に取り組んでいきたいです。

高野 ゴータの新しいことへの意欲やチャレンジ精神も、DG TAKANOに合っている。日本という異国の地で研究しようと思う留学生は、やはり挑戦に対する心理的ハードルが低いだろうか？

ゴータ もちろん日本に来るときにも不安はありましたよ。だけど、新しいことをするときには心配はつきもの。家族や友人からの後押しもあって、挑戦してみようと思ったんです。1つ1つチャレンジを積み重ねて、自分にできることを増やしていきたいんです。

高野 数年で大きく状況が変化するベンチャーでの生活は、ある意味不安の連続かもしれない。だから、それを受け入れて自分を伸ばすきっかけにしてしまうくらいの前向きな成長意欲が必要だと思う。

DG TAKANOもどんどん新しいものを企画して、生み出していく企業を目指している。今は節水ノズルを作る会社だけど、数年後には何の会社かわからなくなっているかもしれない。1つのことに固執せず、社会を変える製品とは何かを考え続ける仲間を求めているからね。

研究の考え方があれば、新しいものを企画できる

ゴータ 自分もいつかDG TAKANOでイノベティブな製品開発をしたいのですが、高野社長はBubble90という画期的な製品をどのようにして生み出したのでしょうか？

高野 社会課題を解決する製品の開発のためには発想力と論理的思考力の2つが必要だとDG TAKANOでは考えている。まず発想力を働かせて、世の中の解決されていない課題や、課題を突破するためのアイデアをたくさん出す。そして論理的思考力で

1つの最適なアイデアを見出すところから製品開発を始めるんだ。技術課題を突破するのも大事だけど、どんな社会課題を解決すべきなのか、どうやって解決するのかを考えることができないと、革新的なものは生み出せない。

ゴータ その考え方は新しい研究テーマを考えるプロセスに似ていますね。論文を読んだりいろんな人のアイデアを取り込みながら、いろんな側面から課題を捉えていって、こんなことできるんじゃないか、あんなことできるんじゃないかと考えをめぐらせる。そこからまだ誰もやっていないテーマを見つけて、進めていく。新しいことが生み出せるのは研究者の強みだと思います。

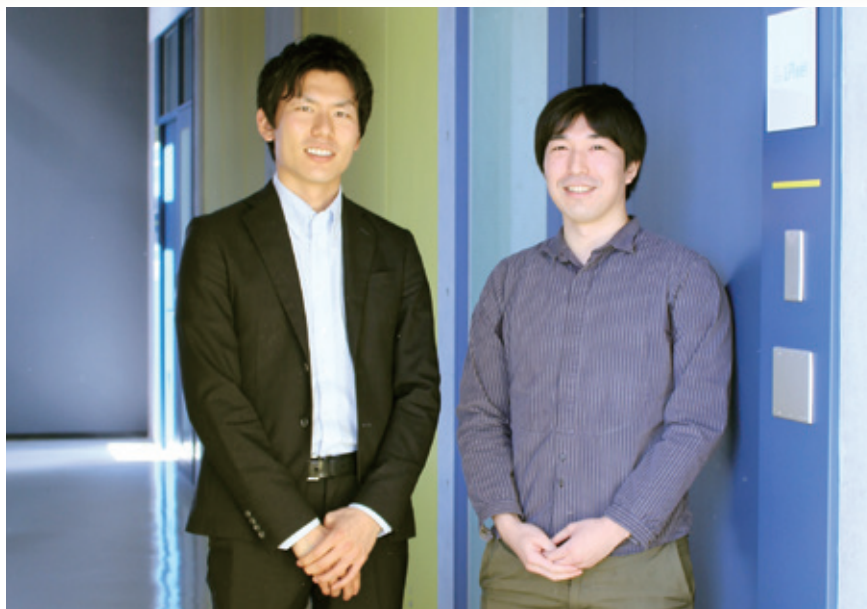
高野 新しい研究テーマを生み出す考え方を、自分の研究だけに活かしてはもったいないと思う。その思考プロセスは新しいサービスや製品の企画にも応用できる。だからDG TAKANOでは研究者に企画もやってもらっている。全員で企画する企業なんだ。いろんな専門性を持った人材を集めるのも、やはりこれまで世の中になかったものを企画するため。みんな違う専門性、考え方を持っているから、いろんなアイデアを出し合っただisksカッションができる。僕ができないことは、どんどん他のメンバーが助けてほしい。そうやって会社が大きくなっていったらいいと考えている。

ゴータ いろんな国籍の研究者が集まっているのも面白いですよ。日本やインド、それにバングラディッシュやブラジル、ポーランド、ロシア。

高野 本当にいろんな国からやってきた研究者がいるから、専門性だけでなくそれぞれの国の背景なども交えながら議論できる。みんなと一緒に、地球規模の課題を解決する準備が整ってきている、そんな実感があってワクワクしているよ。

(取材・構成 鷲見 卓也)

研究者だからできるビジネスがある。 研究者だから起こせる革新がある。



エルピクセル株式会社

代表取締役

しまはら ゆうき
島原 佑基 さん

プロフィール

東京大学大学院修士（生命科学）。研究テーマは人工光合成、のちに細胞小器官の画像解析とシミュレーション。IT企業で事業戦略本部、のちに人事戦略部門に従事。他IT企業では海外事業開発部にて欧米・アジアの各社との業務提携契約等を担当。2014年3月にエルピクセル株式会社を設立した。

研究開発本部 メディカルエンジニア

すがわら こう
菅原 皓 さん

プロフィール

東京大学大学院博士（薬学）。薬剤師。一分子蛍光顕微鏡法を用いた細胞内mRNAのナノスケール局在・運動解析に従事。東京大学ライフイノベーション・リーディング大学院および東京大学医療イノベーションイニシアティブ修了。東京大学特任研究員。

「研究の世界から革新とワクワクを！」とミッションを掲げ、研究の現場から研究の仕方そのものを変えることを目指すエルピクセル株式会社。「技術の発展がサイエンスを発展させる」と語る島原佑基代表取締役に共感し、2016年4月からエンジニアとしてエルピクセルで働きながら、大学でポスドクも続ける菅原皓さん。研究現場を知る研究者だからこそできるサイエンスの発展のさせ方があるという。

真理の探求にワクワクし続ける 研究者であり続ける

島原 社名であるエルピクセル（LPixel）の「L」はLife Science、Laboratoryなどを、「Pixel」は画像の最小単位、画素を指しています。ライフサイエンス領域の画像

解析をする会社なのでわかりやすいですね。21世紀はライフサイエンスの時代だと思っていて、いわば「生物をつくる」時代に入りました。生き物とはなんなのか、病気とはなんなのか。エルピクセルはライフサイエンス×ITの時代を切り開くことを目指しています。

菅原 僕は博士課程のとき、画像解析ソフトを使って細胞中のmRNA分子の蛍光イメージングをしていたのですが、もっと画像解析の踏み込んだ勉強がしたいと思っていました。その頃、学内にエルピクセルという会社があることを知り、研究の一貫として島原さんにコンタクトを取ったのが



きっかけでした。

島原 「すぐ会いましょう」と即答して、同じ東京大学のキャンパス内にある会社に来てもらいました。全然会社っぽくなかったですよ？

菅原 そうですね。研究室の雰囲気に近い感覚がしました。

島原 もともと同じ研究室のメンバー3名で立ち上げた会社で、研究者マインドを大切にしているんです。人からの指示を待つのではなく、自分でやりたいテーマを選んで自主的に動く。「自由・自立・自主」の雰囲気を大切にしつつ、真理を探究することにワクワクする、純粋な知的好奇心を優先する文化づくりを目指しています。

菅原 初めてエルピクセルと出会った時から社員数も倍以上になって、オフィスも広くなりましたけど、メンバー全員が研究者であり続けることは変わっていませんね。

研究もビジネスも。 やりたいことは両方やる。

菅原 エルピクセルへの入社を決めた理由は、自分自身の研究を続けたいという思いと、エンジニアとしてソフトウェアを開発することで研究領域全体の発展に寄与したいという思いを両方実現できると思ったからです。昨年の3月に博士課程を修了した後、4月からは平日の週数日は大学でポストドクとして研究を行い、大学の勤務時間外にエルピクセルのエンジニアとして働いています。



島原 社内では研究と両立して働いているメンバーが複数在籍しています。実は、私自身も週末は博士課程の学生をしています。研究現場に立ちながら、エルピクセルで研究者向けのサービスの開発をする。この両立はとてもいい相乗効果を生んでいると思っています。ユーザーの現場の感覚をそのままサービスに反映できるのですから。自分が使いたいと思うものしか作りません。

菅原 ポストドクとベンチャー企業で働くことの両立ができるのか、確かに少しは不安はありましたが、1年間やってみて、両立できていると感じます。周りの人を見ると、博士課程を出た後は製薬企業の研究職か、アカデミアの道一本という人が大半だったので、周りからは「そういう選択肢もあるんだ」と不思議そうな目で見られました。

島原 ベンチャーで働くことに不安はなかったですか？

菅原 ベンチャーだからという考えはなかったですね。研究現場で自分の研究を発展させながら、ビジネスとして研究領域の発展に寄与する。どちらかを選ぶのではなく、どっちもやる。その考え方が受け入れられ、かつプラスな効果を生み出せるのはベンチャーならではかもしれません。

イノベーションの根幹である科学を 技術の力で加速する

島原 菅原さんとはクラウドベースの画像解析ソフトウェア「IMACEL」の開発を、アイデア出し、プロトタイピングからサービス化までずっと一緒にやっています。新しいことをすぐに実装してしまうスキルと行動力に驚かされました。

菅原 既存の画像解析ソフトの課題は、機能がたくさんありすぎて、ソフトに不慣れた生物研究者にはハードルが高すぎる。たとえば、これまで細胞数のカウントは、人力で行うか、調整が難しい画像解析ソフトを用いなければなりません。



たくさんあるメニューの中から適切なものを選択した上でパラメータを最適化し、さらに適切な順番で処理を組み合わせなければならぬ。IMACELでは直感的にパラメータを数値で1つ1つ設定することなく視覚的に画像解析を進めることができます。いったん解析方法を作成した後は、同一条件で一度に大量の枚数の画像解析をすることも可能です。今後は機械学習を活用することで、画像をアップロードするだけでその画像が何かを認識し、解析目的も自動で判断して解析結果が得られるようにしていきたいです。

島原 研究者がデータの解析に時間を取られて本来やりたいことができない、考えられないのはもったいない。今までヒトがやっていたことを人工知能に任せて、その間に研究者が本質的に頭を使わなければならないことに時間を割けるようにする。それがIMACELのコンセプトです。

菅原 研究の魅力は、世界中でまだ誰も知らない現象を自分だけが知ることができること。ワクワクしますよね。エルピクセルの仕事を通じて、1人でも多くの研究者が新しい発見をする現場を増やし、社会の発展をサポートできれば嬉しいです。

島原 イノベーションの根幹はサイエンスだと信じています。そして、サイエンスの発展が科学の発展を加速させる。だからこそ、技術が必要なところには適切な技術を提供していきたいと思っています。せっかく会社を作っているのだから、1人の研究者ではできないけれど、チームとして、研究で世の中に革新を与えられる集団を目指していきたいと思います。

(取材・構成 上野 裕子)

第6回 超異分野学会 開催!

Be Hyper-interdisciplinary “超異分野であれ”

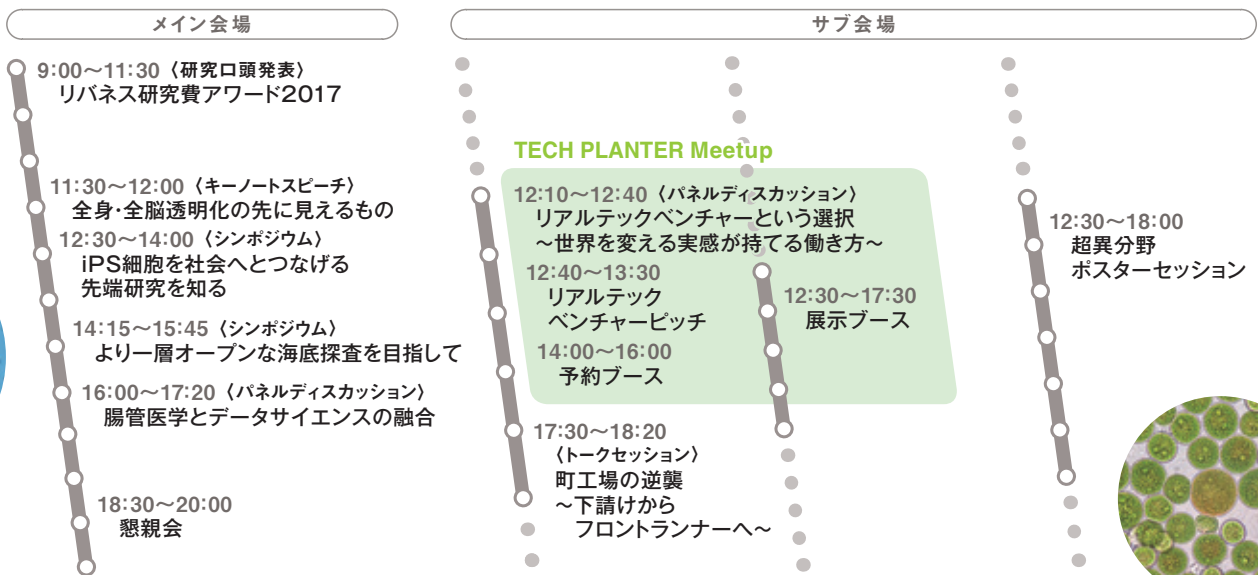
超異分野学会は、研究者、町工場の職人、起業家など、多様なプレイヤーが話題を持ち寄り自由に議論する場です。分野の枠を超えたチームの形成なくしては課題解決が難しくなっている時代、事を起こす仲間を見つけるきっかけの場がここにあります。

本大会テーマ ▶▶ **知のるつぼ**

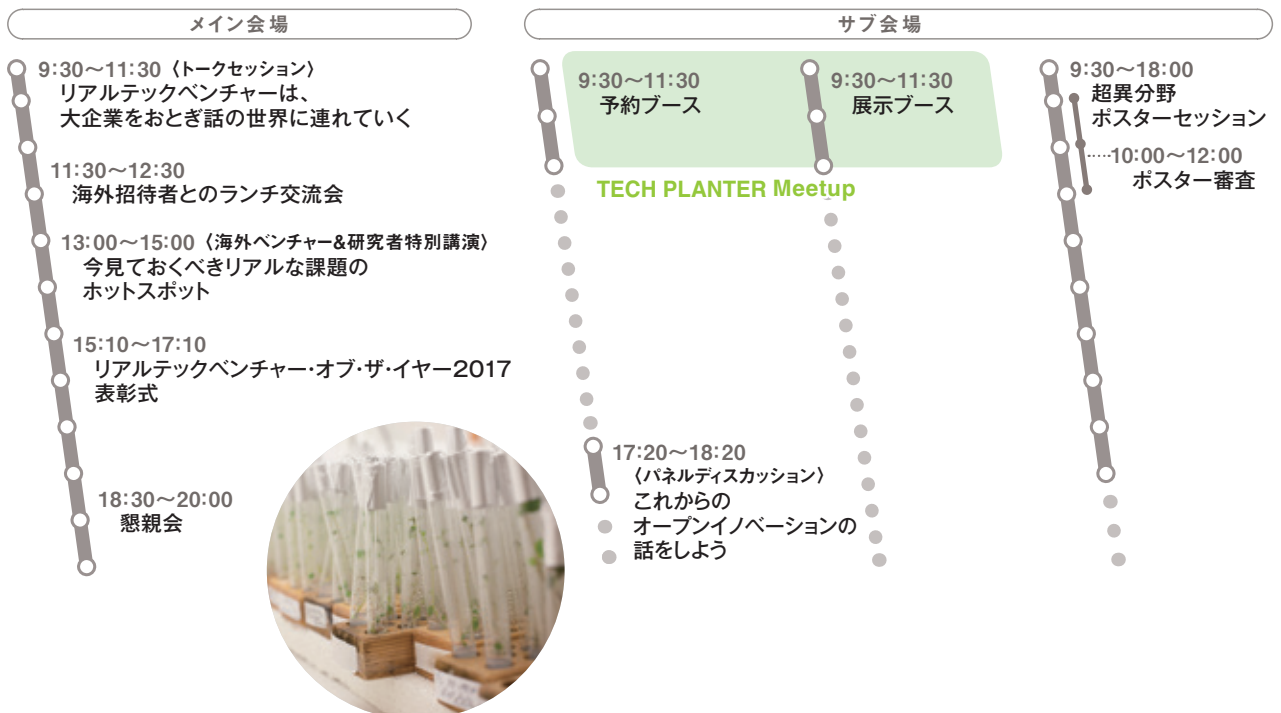
[日 時] 2017年3月2日(木) 9:00~20:00
2017年3月3日(金) 9:30~20:00

[場 所] 秋葉原UDX 〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1

本大会スケジュール 【3月2日(木)】



本大会スケジュール 【3月3日(金)】



[主催]



株式会社リバネス

[共催]



日本財団



リアルテックファンド

[協賛]



日本ナショナルインスツルメンツ株式会社



森下仁丹株式会社



一般社団法人
ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン

Pickup!

3月2日(木) 14:15~15:45 メイン会場

[シンポジウム] より一層オープンな海底探査を目指して

これまで海洋開発や海底探査のプレーヤーではなかったと感じている異分野の研究者が、先端的な海洋開発・海底探査トピックを持ち帰るためのシンポジウムです。資源開発、海底地形図、探査機などの技術革新の過程において、いかに多分野からの参入が待ち望まれているか、どういう形での参画がありうるのか、どのような夢を追いかけられているのかについて、キープレイヤーがディスカッションを行います。

共催 日本財団



3月2日(木) 16:00~17:20 メイン会場

[パネルディスカッション] 腸管医学とデータサイエンスの融合

腸内細菌叢と健康の関係が報告されるようになり、腸への注目が高まっています。今回は、腸内細菌の解析を行なう研究者、腸に関する情報を発信し続けている若手医師、膨大な腸内細菌とヒトの状態に関するデータを関連づけるために必要不可欠なデータサイエンティストが一堂に会し、ひと味違った議論を展開します。

協賛 森下仁丹株式会社



3月3日(金) 15:10~17:10 メイン会場

リアルテックベンチャー・オブ・ザ・イヤー 2017 表彰式

大学の研究室などで生まれた革新的なテクノロジーを使って地球や人類の課題解決を目指す、新進気鋭の“リアルテック”ベンチャー・スタートアップ企業が集結!本気で世界を変えるため、各社とも熱のある仲間を募集しています。各社のビジョンや活気ある雰囲気をぜひ体感しに来てください。

共催 リアルテックファンド



3月2日(木) 12:10~17:30 サブ会場

3月3日(金) 9:30~11:30 サブ会場

TECH PLANTER Meetup

独自のサイエンスとテクノロジーを使い、社会の課題解決に挑む若い起業家たちが集まるリアルテックベンチャー。彼らはともに夢を実現することに挑戦してくれる「熱」のある仲間を求めています。TECH PLANTER Meetupはリアルテックベンチャーとそこに加わる未来の挑戦者たちが一堂に会する場です。起業家のパッションを直接肌で感じてみてください。あなたの次なる挑戦の場が、きっとここにあるはずです。

共催 リアルテックファンド



第2回

TECH PLANTER Meetup

2017年 3月2日(木) 12:10 ~ 17:30

3月3日(金) 9:30 ~ 11:30

主催:株式会社リバネス 研究キャリアの研究所

共催:リアルテックファンド

独自のサイエンスとテクノロジーによって、社会の課題解決に挑む若い起業家たちが集結するリアルテックベンチャー。TECH PLANTER Meetupはリアルテックベンチャーとそこに加わる未来の挑戦者たちが一堂に会する場です。起業家のパッションを直接、肌で感じてみてください。

彼らはともに夢を実現することに挑戦してくれる「熱」のある仲間を求めています。あなたの次なる挑戦の場が、きっとここにあるはずです。

パネルディスカッション 3月2日(木)12:10~12:40 サブ会場 「リアルテックベンチャーという選択～世界を変える実感が持てる働き方～」

ベンチャー創業者と、ベンチャーに加わり活躍している方々をパネリストにお迎えし、リアルテックベンチャーで働くことの面白さや難しさについて、本音を語っていただきます！モデレータは株式会社ユーグレナをCFOとして上場まで導き、現在はリアルテックファンド代表も務める永田暁彦さんです。

モデレータ



永田 暁彦さん
リアルテックファンド
代表

パネリスト



平田 勝則さん
コネクテックジャパン株式会社
代表取締役



清水 敦史さん
株式会社チャレナジー
代表取締役 CEO



小山 晋吾さん
株式会社チャレナジー
取締役 CTO



戸祭 衛さん
株式会社人機一体
取締役

リアルテックベンチャーピッチ 3月2日(木)12:40~13:30 サブ会場

リアルテックベンチャーの「熱」を感じられるピッチセッション。創業者や研究者が、世界の革新にかける想いを1分間で語ります。あなたの心にも火がつくこと間違いなし！

ブースセッション

予約ブース 3月2日(木) 14:00 ~ 16:00 3月3日(金) 9:30 ~ 11:30

展示ブース 3月2日(木) 12:30 ~ 17:30 3月3日(金) 9:30 ~ 11:30

サブ会場

予約ブースでは事前予約時間枠を設け、企業を独り占めして自由に交流いただくことができます。その企業が誇る技術の詳細や掲げているビジョン、担当者がどのような想いで仕事をしているか、どのようにして参画したか、普段の生活の様子など多人数相手の説明会では話せない貴重な内容も聞くことができます。

アイ・イート株式会社



代表者
寺門 孝
設立
2014年

農産物の高品質化技術・品質評価技術・省力化技術・ロボット技術の開発・販売を行っています。大粒イチゴ用個別包装容器フレッシュル®は、日本産大粒完熟イチゴのヨーロッパ輸出を可能にしました。

iHeart Japan 株式会社



代表者
角田 健治
設立
2013年

心臓移植の臓器不足問題を解決すべく、誰もが受けられる心臓の再生医療を実現しようと日夜邁進している、設立から約4年の若いベンチャー企業。

アメリエフ株式会社



代表者
山口 昌雄
設立
2010年

生命活動に関わるあらゆる情報を収集・蓄積し、統合的に解析することで、日々の生活に役立つサービスや製品作りの基礎研究から商品開発やマーケティングまで幅広くサービスを提供しています。

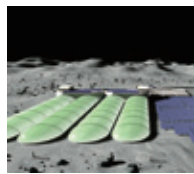
イヌパシー株式会社



代表者
山口 譲二
設立
2015年

センシングから得られる生体情報から、いかに感覚に訴えられるものを伝えられるか、それによってもたらされるより濃密な関係作りを目指します。イヌ、ネコ、家畜や我々人間もその対象です。

インテグリカルチャー株式会社



代表者
羽生 雄毅
設立
2015年

コア技術は低価格な無血清培地を用いた大規模化が可能な細胞培養システムです。これにより純肉(培養肉)の価格を従来の1/1000に下げるブレークスルーを達成し、さらに開発は進行中です。

株式会社オーガニックnico



代表者
中村 新
設立
2010年

「自然と人間と技術の調和を図り、人間と地球が健康でいられる社会づくりに貢献」有機野菜の生産とともに、農業を科学の力でサポートすべく生産技術開発を行っています。

株式会社オーダーメイドメディカルリサーチ



代表者
村上 康文
設立
2012年

早期導出可能な抗体医薬の研究開発が事業の中心であり、癌の完治を可能とする抗体医薬の創生をめざしている。新規標的分子の探索からリード抗体の作製を行い製薬企業への導出をめざしている。

KAKAXI,Inc



代表者
大塚 泰造
設立
2014年

「一次産業 → 情報産業」食べ物をモノとして消費するだけでなく、その生産過程にある情報を付加することで価値を向上させ、一次産業を情報産業として次世代に残す。

株式会社QDレーザ



代表者
菅原 充
設立
2006年

量子ドットレーザー技術の先駆者として、通信・産業・医療・民生等、広い分野で活躍しています。網膜走査型レーザーアイウェア等、多くの独創的な製品を生み出し続けています。

株式会社Kyulux



代表者
安達 淳治
設立
2015年

従来、実現困難といわれてきた高効率な青色発光材料の製品化を実現させるとともに、従来からの赤色・緑色の性能を大幅に向上させる有機EL発光材料の開発に取り組んでいます。

株式会社クアンタリオン



代表者
根岸 邦彦
設立
2014年

世界初・唯一の原子核崩壊による真正乱数器の事業化をめざしています。物理素子がIoTの健全な発展に必要なセキュリティ基盤を構築します。

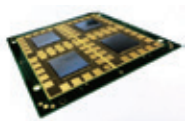
コグニティ株式会社



代表者
河野 理愛
設立
2013年

「認知バイアスを技術の力で取り除く」ためのソフトウェアサービス開発

コネクテックジャパン株式会社



代表者
平田 勝則
設立
2009年

世界唯一の低温・低荷重ダメージフリー・ボンディング技術『MONSTER PAC』を武器に、基板設計～構造提案～プロセス開発～試作～評価・解析～量産までワンストップで顧客要求に応える。

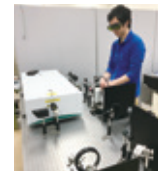
株式会社人機一体



代表者
金岡 克弥
設立
2007年

「あまねく世界からフィジカルな苦役を無用とする」ために、人に役に立つ力学的機能を備え、人の身体能力を拡張する本物のロボット「マンマシンシナジーエフェクタ」を実現する。

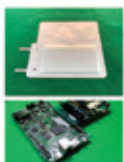
シンクランド株式会社



代表者
宮地 邦男
設立
2014年

当社は、光渦レーザー技術を用いて無痛で生体吸収性を示す中空型（ホロー）マイクロニードル開発・事業化を行う。全世界で苦しんでいる糖尿病患者向け注射器や永久なる美の追求におけるアンチエイジングスキンケア化粧品等を主な市場と考えている。

株式会社スペースリンク



代表者
阿部 俊雄
設立
2004年

独自のナノカーボン制御を用いた「次世代蓄電デバイス事業」と、高精度かつ低コストを実現するマルチGNSS受信機の開発を行う「高精度測位システム事業」の2つの事業を行っています。

株式会社センタン



代表者
田中 尊信
設立
2000年

実験心理学の理論と生体信号の測定技術を応用し、企業が持つ課題の解決や基礎研究に取り組んでいます。具体的には企業の研究開発のサポートをしたり、マーケティングや製品の評価を行ったりしています。

株式会社チャレナジー



代表者
清水 敦史
設立
2014年

激しい風速・風向の変化にも適応し、台風下でも安定して発電ができる次世代風力発電機「垂直軸型マグナス風力発電機」を事業化し、世界的なエネルギーシフトの実現を目指す風力発電ベンチャーです。

株式会社DG TAKANO



代表者
高野 雅彰
設立
2010年

当社は多国籍チームが知識を革新させ、世界の社会課題を解決する為の仕組みを生み出す会社です。デザイン思考を用いて問題の本質を見抜き、ハードウェア/ソフトウェア/サービスの仕組みを企画し、世の中の課題を解決します。

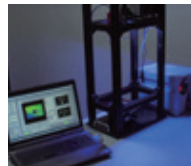
株式会社ニューロスペース



代表者
小林 孝徳
設立
2013年

睡眠テクノロジーを活用して人々が最高の睡眠を楽しむ世界を構築する企業です。

4Dセンサー株式会社



代表者
梶谷 明大
設立
2012年

世界一のスピードを誇る形状計測・変形計測装置を研究開発・販売している企業です。

株式会社未来機械



代表者
三宅 徹
設立
2004年

若手研究者と百戦錬磨のエンジニアがタッグを組んで、未来の街の課題を最新ロボットテクノロジーで解決します。

株式会社メタジェン



代表者
福田 真嗣
設立
2015年

独自技術「メタボロゲノミクス®」を用いて、腸内環境に基づいた新たな健康評価方法を開発しています。また、エビデンスに基づく「腸内デザイン」を推進し、病気ゼロ社会の実現を目指しています。

株式会社メルティンMMI



代表者
伊藤 寿美夫
設立
2013年

「次世代型高機能筋電義手」の実用化に向けて設立された大学発ベンチャー。人と機械を繋ぐBMI、あらゆる物を繋ぐIoT技術を駆使して、人と機械の融合によるサイボーグ技術の確立を目標とする

株式会社レゾネスト



代表者
前川 博俊
設立
2015年

最新のセンサーを使って、色、形、高さなどの違いからキミだけの「音」を作る、リアルなものにコトバを吹き込んで、その場全体のメッセージを創造する、そんな「フシギ道具」を作っています。代表者らがいままで蓄積したUX、IoT、AI、分析の技術を駆使して、あらゆるものが自在につながる世界、ものに直接触れるリアルな情報生活、創造的で生産的な情報活動を実現します。

株式会社Rhelixa



代表者
仲木 竜
設立
2015年

独自計算アルゴリズムによる網羅ゲノム解析を用い、ゲノムレベルで生命の状態を判断する検査技術を提供し、生命情報を用いた新たな「モノづくり」に貢献したいと考えています。

大阪フォーラムでも開催! TECH PLANTER Meetup in OSAKA

日時: 2017年3月12日(日) 13:00 ~ 14:00
会場: 立命館大学大阪いばらきキャンパス

出展企業:

アクアフェアリー株式会社

技術と情熱で豊かな生活環境を実現する

株式会社人機一体

人型重機で人類を苦役から解放する

株式会社チャレンジー

台風で発電する次世代風力発電機

パワーアシストインターナショナル株式会社

農業用パワーアシストスーツの研究・開発

4Dセンサー株式会社

世界最速の形状・歪み計測

株式会社ミュー

消化管を苦痛を伴わずに検査できる

医療用マイクロマシン開発

詳細およびお申込みはこちら

<https://hic.lne.st/osaka2017/#meetup>



コトバも、医療技術だと考える。

あの薬が認可されていれば、治せた病気がある。
あの治療法が広まっていれば、救えた命がある。

医療に関わる言葉は、人を守る言葉です。
日本の医療を世界に伝える、
世界の医療を日本に伝える、
架け橋となる。

それが、ASCAの医薬翻訳 / ライティング。
言葉はきっと、命を守れる。
そう信じて、今日も明日も歩み続けます。

私たちは、命を「コトバで」救うための仲間を募集しています。

アスカコーポレーションは、翻訳や英文校正をはじめ、メディカルライティング、論文投稿支援、臨床試験登録など、医薬・ライフサイエンス分野に特化したドキュメンテーションサービスの会社です。

私たちが手がけた「コトバ」は、最先端の研究成果や治療に関する知見をのせて国境を超え、それらを求める人々のもとに届きます。そこから生まれる新しい薬や治療法はきっと、どこかで誰かの大事な命を救ってくれるはず。私たちは、「コトバ」で医療を伝え、世界中の人々の生命と健康を守ることに貢献するこの仕事をしていることを、誇らしく思っています。

今、私たちは、翻訳者、ライター、校正者など、サービスに関わるすべての人をマネジメントする「プロジェクトマネージャー (PM)」として会社の仲間になってくれる人を募集しています。私たちのお客様は、研究者や医師など、ほとんどが理系の方です。お客様のバックグラウンドや実現したいことを理解し、お客様からお預かりした重要な情報の価値を最大化するために、あなたの専門性と研究経験を、アスカコーポレーションで最大限に発揮してみませんか。



代表取締役
石岡 映子



会社説明会を開催します < 2018年卒業生向け >

日程 2017年 **3月15日** (水) 10:00~13:00

4月27日 (木) 10:00~12:00

5月23日 (火) 10:00~12:00

会場 **大阪** 株式会社アスカコーポレーション 大阪本社
大阪市中央区平野町 1-8-13 平野町八千代ビル 9F

東京 株式会社アスカコーポレーション 東京支社
東京都港区芝浦 1-14-5 芝浦 TY ビル 4F

「英語で履歴書を書こう！」
同時開催します
※ 3/15 (水) のみ。参加無料です。

事前申込み制

お電話またはウェブサイトから
www.asca-co.com
06-6202-6272

株式会社アスカコーポレーション
<http://www.asca-co.com/>

大阪本社
〒541-0046 大阪市中央区平野町 1-8-13
平野町八千代ビル 9F
TEL: 06-6202-6272 FAX: 06-6202-6271

東京支店
〒105-0023 東京都港区芝浦 1-14-5
芝浦 TY ビル 4F
TEL: 03-6459-4174 FAX: 03-6459-4175

アスカコーポレーションは、米国科学誌『Science』
およびそのファミリージャーナルの広告業務における
日本総代理店です。

Science
AAAS

探しに行こう 自分の場所

前を向いて進み続ける人たちがいる。

自分が活躍できる場所はどこか。

自分には何が足りないのか。

自分は何がしたいのか。

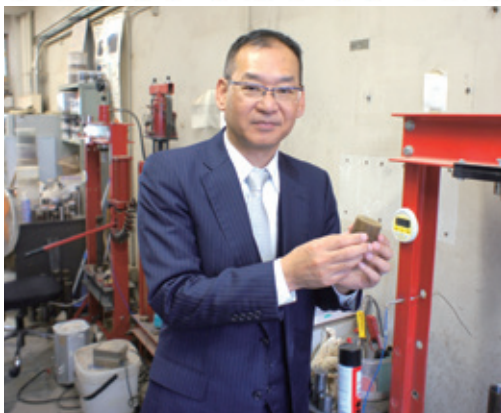
自問自答を繰り返し、
ときには立ち止まることがあっても
一步一步確実に前進を続けている。

知識と経験、そして情熱を武器に
限界に挑戦しながら、走り続ける。

彼らに続いて、自分を探す旅へ出よう。

- P20 独自性を武器に、3,000 万年を飛び越えろ！
(近畿大学 バイオコークス研究所 井田 民男さん)
- P21 異分野とのコミュニケーションこそ、道を拓くチャンス
(東急建設株式会社 荒川 竜太さん)
- P22 人と人をつなげるために「自分」が分野や組織の壁を超えていく
(個人事業主 阿部 拓也さん)

独自性を武器に、 3,000万年を飛び越える！



「人造の石炭」と呼ばれ、植物を原料とする新しい固形燃料である「バイオコークス」。この研究で最先端を走るのが、近畿大学バイオコークス研究所の井田民男さんだ。自身のことを「実学よりも、物事の真理を追求する理学的な研究を好むタイプでした」と語るが、現在取り組んでいるのは、地球規模の燃料問題の解決だ。

い だ た み お
井田 民男さん

近畿大学バイオコークス研究所 所長／教授

バイオコークスで燃料の 世界が変わる

2015年12月、気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）が「パリ協定（Paris Agreement）」を採択した。京都議定書以来、温暖化問題に対処するために18年ぶりに合意された国際条約だ。京都議定書によって温暖化ガス削減の意識は高まり、特に先進国において対策技術も大幅に進んだ。パリ協定では、さらに、先進国以外の国も自国で削減目標を立て、脱炭素社会に向けた歩みが始まっている。

生活に不可欠な電気エネルギーは、炭素を取り込んだ植物が3,000万年を経て変化した化石燃料から取り出される。発電所での燃焼を経て二酸化炭素として現代の大気に放出されることで、温暖化の原因となるのだ。そこで、現代の二酸化炭素を光合成により取り込んだ植物を燃料化すれば、燃焼してもCO₂増加量は±ゼロとなる。バイオコークスの開発に取り組む井田さんは、既に茶殻やコーヒーのかすなど、大量に廃棄処分されている植物性ゴミからバイオコークスを量産する技術を世界に先駆けて実現している。「利用価値のない廃棄物が1時間で燃料に変わる。すごく面白いじゃないですか」。

最重視したのは独自性だった

「小さい頃から、人が考えた問いに答えることはつまらないと思っていまし

た。勉強は好きではありませんでしたが、自然と研究を志していましたね。近畿大学に移る前は「マイクロフレーム」をテーマに研究していた。マイクロフレームとはその名の通り、小型の火災である。火災は小さくなるにつれて、通常の火災とは異なる振る舞いをするものが指摘されているものの、あまり研究されてこなかった。「なぜ燃えているのか」といった、炎の本質に迫る理学研究にのめり込みました。

実学研究に力を入れている近畿大学のポストを得たのは2000年のこと。このとき頭をよぎったのは、昔からもっていた「人と同じことはやりたくない」という思いだった。ならば、より社会での応用を意識した研究領域で「独自の」テーマを立ち上げられないか。当時、日本は国を挙げてバイオマスの資源化に取り組んでいた。周りにもバイオマスの液化やガス化に取り組む研究者が数多く存在した。「それなら僕は、誰もやっていないバイオマスの固体化だな」。こうして新たに実学に即した研究が始まった。

実用化のためなら、 研究の枠も広がる

実用化に向けた取り組みは世界に広がっている。2011年には大阪府森林組合とともに、世界初の商用製造プラントを建設した。2014年からはマレーシアでバイオコークスの生産導入試験を開始している。茶殻、コーヒーかす以外にも、パームヤシ、そば殻、草木類など、ほぼ

全ての植物系バイオマスからバイオコークスの製造は可能となった。地産のそば殻からバイオコークスを製造し、ボイラーなどにより温水にして地消することで地域活性化の取り組みに活かしたり、休眠施設を利用してバイオコークスを製造したりするなど、地域の雇用促進などが図れる取り組みも進行中だ。「循環型社会の実現という研究には、技術開発と共に社会システムの構築も含まれます。やるのがたくさんあって大変ですよ」。

独自性を重視した結果、理学的研究から飛び出した井田さんの研究は、今や地球規模の燃料問題の改善を視野に入れた取り組みに発展している。大切なのは理学研究、実学研究、もっというと研究者だからといって技術開発にこだわることではない。誰も取り組んでいない挑戦をすること。現代を生きる研究者に求められる姿勢を、井田さん自身が指し示している。

井田 民男さん プロフィール

1962年生まれ。大阪府出身。豊橋技術科学大学卒。同大学院修士課程修了。近畿大学熊野工業高等専門学校（現・近畿大学工業高等専門学校）勤務を経て、2000年、近畿大学理工学部に移り講師。2005年、アメリカの州立ケンタッキー大学にて在外研究。2014年より現職。近畿大学バイオコークス研究所所長も務める。

異分野とのコミュニケーションこそ、 道を拓くチャンス



農業研究への想いが 博士学生への転向のきっかけ

「農学出身者がゼネコンへ就職という違和感を感じられるでしょう」と朗らかに話す荒川さんは、大学院修士課程ではアーバスキューラー菌根菌という、植物生育を助ける菌を用いた荒廃地緑化に関する研究を行っていたという。修了後は地元で働きたいという考えもあり、農学分野からは離れ化学メーカーに就職した。3年ほど勤め、「安定した生活ができていたし、やりがいは感じていた」が、一方で、農学研究をしたいという想いが尽きることはなかった。「チャレンジするなら20代のうちに」と転職や公務員試験も視野に入れて調査をしたが、自分のやりたい研究ができる環境には出会えなかった。そこで頭に浮かんだのが、会社を辞めて新たに博士課程に進むという選択だった。「研究経験を深めながら、もう一度、次の挑戦のフィールドはどこなのか、じっくり考える時間を持つと思ったのです」という荒川さんは、再び北の大地に舞い戻った。

議論の積み重ねが、 意外な出会いを生んだ

入学当初から修了後のキャリアについて意識していたという荒川さん。しかし、博士課程の就職活動に関する情報は少なく、イベントも修士課程向けのものがほとんどだった。そんな中、光明をもたら

したのが、大学が主催していた若手研究者と企業の交流イベント「赤い糸会」だった。そこでは各回製薬、食品、IT、機械、建築等多岐に渡る業界の企業と学生が交流できる。「自分の研究分野がそのまま合致する企業はありませんでしたが、そこでめげなかったのが今となっては良かったですね」と振り返る。企業が今どんな取り組みをしているのかを知り、表面上の情報では企業のニーズと自身の研究内容に隔たりがあるとしても、自分の研究が企業にとってどのように活用できるかというディスカッションを企業担当者と繰り返した。その積み重ねが結果として出会ったのが、今の職場である東急建設だった。赤い糸会でのディスカッションの内容が研究所長の耳に入り、「植物工場事業を手掛ける子会社を見に来ないか」と声がかかったのだ。思いもよらないキャリアパスが拓けた瞬間だった。

異分野に飛び込み、 自分の活躍できる舞台を創る

子会社での3か月間のインターンシップを経て、荒川さんは東急建設本社に入社した。「社内では唯一の農学専門家としての専門性は、他の社員とは一線を画する視点として、思った以上に重宝されています」。異分野の舞台に上がったことにより、より一層のやりがいと得られているという。植物工場を含め、新しい研究開発を積極的に仕掛けるプロジェクトも任せられるようになった。異分野の

場で活躍のチャンスをつかむ秘訣を聞くと、「就職のときと一緒です。好奇心を持って様々な分野に飛び出し、コミュニケーションを取り続けることが重要」と彼は語気を強めた。

自分の専門性にとらわれず、様々な人と積極的にコミュニケーションを取り続ける。一見関係なくても、じっくり話をする時間を持つ。そうすることで、後々にお互いの興味関心が交わる場合も多いと話す。研究を加速させるためだけでなく、新しい活躍の場を切り拓くためにも、研究者は異分野との交流をとり続ける必要があるのだ。

あらかわ りょうた
荒川 竜太さん

東急建設株式会社
技術研究所 研究企画グループ

荒川 竜太さん プロフィール

2009年3月北海道大学大学院農学院修士課程修了を修了し、化学系メーカーの研究開発を3年間担当した。その後退社し、2012年4月から修士時代に所属していた研究室の博士課程に入学し、2015年3月に修了。2015年4月に東急建設株式会社技術研究所に入社し現在に至る。博士(農学)。

人と人をつなげるために 「自分」が分野や組織の壁を超えていく



研究者が活躍できる場所は、大学や企業の研究所の中だけなのだろうか？今回お話を伺った阿部拓也さんは、所属していた研究所を飛び出し「自営業の研究者」として、地域の課題中から自分で研究現場を生み出してきた。研究者だからこそどんな場所でも活躍できる、そう語る彼の原動力に迫った。

あべ たくや
阿部 拓也さん

個人事業主

雑草研究は未知への挑戦

大学の修士課程から雑草の研究を続けていた阿部さん。「農作物の専門家は多くいるが、雑草の専門家はほぼいない。未開拓の分野だからこそ面白そうだと思う」と言う。雑草は悪者扱いされることも多い存在だが、うまく使えばカドミウムなどの土壌中の有毒金属を吸い取ることもでき、環境浄化を可能にする存在として期待もされている。しかし、いざ雑草を生やそうとするとすぐ枯れてしまうらしい。じつは繊細なヤツらなのだ。水質や土質、日当たりなど条件を変えながら多種多様な雑草の調査を続けた。雑草を深く知るためには、地質学、生物学、土壌の化学、あらゆる分野を横断的に俯瞰して見る必要がある。「教科書に答えが載っていないことがほとんど。しかしその分、実験方法など自分で自由に考えられたし、やり甲斐がありました」と阿部さんは言う。10年近く、雑草研究のプロフェッショナルとして研究に勤しむ中、転機は突然訪れた。

震災後の土地に、 新しい農業を興したい

2011年3月11日、東日本大震災が発生。阿部さんの出身地である宮城県山元町も津波に見舞われた。すぐさまボランティアとして現地に駆けつけた阿部さんはあることに気づいた。津波によって海

水に侵された土では、生える雑草の生態系が変化していたのだ。「塩分濃度が高くなった土で植物の生態系が変われば、これまでと同じ農業はできません。作物が栽培できなくなった農家さんたちを見て、山元町に新しい農業を生み出したいと思いました」。そこで目をつけたのがサツマイモ。痩せた土地でも栽培が簡単というのが選んだ理由だ。地元の農家とともに、どんな品種が山元町の土地で育ちやすいのか、手探りを続けた。「どんな栽培条件が正解かわからないのは雑草研究と同じです。研究を進めていくなかで生育に大きく影響を与えるのは塩分濃度ではなく、水はけであることも新しくわかりました」と話す阿部さんは、1年以上をかけて「べにはるか」という種類がもっともこの地に適していることを見出した。

「自分」が組織を超えて 人と人をつなげる

農家との交流を深める中で、作物の栽培に限らず生産から流通に至るすべてのプロセスにある課題を解決したいと思うようになったという阿部さん。「近年、農家と消費者を直結させる風潮がありますが、レストランは仕込みに忙しい現実があり、一方で農家では出来すぎた作物を捨てている。それぞれの課題がちぐはぐしているんです。現場の悩みは現場で直接話をしなければわからない。それ

ぞれの現場にいる人と人を、自分という人を通じてつなげていきたい。そう願う阿部さんが選んだのが、組織に加わらない個人事業主という働き方だった。個人だからこそ、様々な仕事に同時に関わることができる。現在では栽培に関するアドバイスにとどまらず、農業の補助金の申請書作成、空き農地を使った栽培研究、山元町の町づくりのプロジェクトにも携わる。現場の人の、地域の人の困りごとを解決する方法に正解はなく、組織や学問分野の壁を超え、全体を俯瞰してものごとを見る必要がある。雑草研究が教えてくれた、答えがないから面白いという考えが今も阿部さんを突き動かしている。

阿部 拓也さん プロフィール

2001年に新潟大学農学部を卒業したのち、2003年に宇都宮大学農学研究科で修士号、2007年に東京農工大学大学院連合農学研究科にて博士号を取得。宇都宮大学雑草科学研究センターに勤めたのち、個人で研究活動をすべく独立。専門は雑草の生育、また雑草を用いた環境浄化。ブログ『博士ライフ』(<http://weedhakase.com/>)にて活動報告を行っている。博士(農学)。

研究キャリアの相談所が、ポスドク問題を解決します。

研究をはじめたら、 すぐに登録！

「研究経験」を活かした仕事で活躍したいなら、

研究キャリアの相談所

「研究経験」を持つみなさんを、さまざまな企業が待っています。

研究者は、社会のさまざまな課題に対して「問い」を立て、自身の研究テーマに熱を持って取り組んでいます。その経験や考え方を活かし、さまざまな企業・研究所でもみなさんが活躍できる世界を目指し、リバネスでは「研究キャリアの相談所」を開始しました。「研究キャリアの相談所」は、研究で培った考え方を活かし、社会で活躍したいすべての人のための相談所です。

■ どんないきに登録すればいい？

「研究を始めた」そのときからご登録ください！

就職・転職に関するサポートだけでなく、研究人材に特化した悩みを解決できるプログラムをご用意しています。

もっと研究をがんばりたい！
と思ったら……

研究を推進するための資金・場所・
仲間を手に入れることができます。

▶ リバネス研究費や
TECH PLANTER をチェック！

研究との向き合い方を変えて
みたい、と思ったら……

自分のやりたいことを見つける、研
究ともう一度向き合うためのきっか
けを手に入れることができます。

▶ リバネスの週末型インターンシップ、
『incu・be』の「探しに行こう 自分の場所」
をチェック！

就職・転職で悩んだら……

自分の強みは何？ どんな研究キャ
リアを歩みたい？ あなたが活躍す
べき場所を探すお手伝いをします。

▶ 研究キャリアイベントや
求人情報をチェック！

■ 登録するとどんなサービスが受けられる？

まずは、研究キャリアの相談所のメンターが、簡単な面談をさせていただきます。

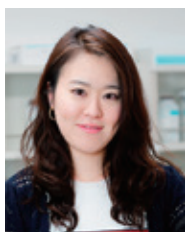
あなたの悩みに合わせて、あなたがもっとも活躍できる方法を一緒に考えます。

■ 研究キャリアの相談所のメンター



磯貝 里子
Satoko Isogai
博士(生命科学)、サイエンス
ブリッジコミュニケーター*

研究人材が社会で活躍す
るための研修プログラム
開発および運営に携わる。
大学の研究者への取材や
学生への指導を通じ、多
数のキャリア事例を知る。



上野 裕子
Yuko Ueno
博士(理学)、サイエンスブリ
ッジコミュニケーター*

自身の留学経験を活かし、
海外でのグローバル人材
プログラムの開発に携わ
る。外国人留学生を対象と
したキャリア相談も担当。



齊藤 想聖
Sosei Saito
修士(薬学)、サイエンスブリ
ッジコミュニケーター*

アールステージのベン
チャー企業や起業家との
ネットワークを豊富に持ち、
事業化を目指す研究者の
メンタリング経験を持つ。

研究キャリアの **相談所**

<https://r.lne.st/career/>

登録はこちら ⇒



Powered by 株式会社リバネス



Leave a Nest

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1番4号 飯田橋御幸ビル5階

TEL: 03-5227-4198 FAX: 03-5227-4199 E-mail: career@leaveanest.com

※ お電話でのお問い合わせは平日9時～18時のみのご対応となりますので、ご了承ください。

研究キャリアの相談所

募集中の求人情報

研究に熱い企業があなたを待っています！

株式会社リバネスの「研究キャリアの相談所」では、研究経験を活かせる仕事をご紹介します。興味のある方はぜひご応募ください。その他、最新の求人情報「研究キャリアの相談所」ウェブサイトの登録者にご連絡いたします。ぜひご登録ください！

株式会社アミノアップ化学

職 種

学術室職

主な仕事内容

科学的根拠に基づく機能性食品素材の営業では、基礎、臨床での多岐にわたる学術データをもって顧客やユーザーに対する説明を行います。また、共同研究実施の際も、高度な専門知識と専門的なコミュニケーションが必要です。学術室は、こうした場面での社内外のサイエンスコミュニケーションを専門に行う部署です。以下の業務で力を発揮していただきます。

- ・製品開発(処方提案、自社製品に関するプレゼンテーション)
- ・市場調査
- ・共同研究管理(共同研究先大学などとの研究内容、進捗、契約管理)
- ・学術資料作成、論文執筆、市場調査など

アメリエフ株式会社

職 種

システムエンジニア、プログラマー

主な仕事内容

医療・バイオ研究データの解析およびデータベース開発や、疫学調査・医療情報のデータマイニングおよびシステム開発・バイオインフォマティクスの導入支援・教育・コンサルティングをしている会社です。新しいサービスを立ち上げるシステムエンジニアを募集します。自由な発想・アイデアで新事業立ち上げの挑戦、医療・健康分野での社会貢献を実現したい方を求めています。ベンチャーのスピード感をもちながら、9時～18時の定時勤務としている働きやすい会社です。以下の業務で力を発揮していただきます。

- ・研究機関、医療機関向けサービスのシステム開発
- ・データベース開発
- ・ビッグデータ解析のためのシステム開発

4D センサー株式会社

職 種 プログラマ

主な仕事内容

4D センサー株式会社は、超高速・高精度・小型・安価な三次元形状・変形計測装置の開発および販売を行っています。形状・変形計測装置のプログラム開発に携わるプログラマを募集します。

【求める条件】

- ・C言語のプログラム能力
- ・Visual C++ 経験
- ・光学の知識があれば尚よい

株式会社人機一体

職 種

巨大ロボット社会実装のための工学者・技術者
および財務、法務、労務、知財等担当者

主な仕事内容

株式会社人機一体は、「人機社の使命」を遂行することによって、金岡博士のバッション「人機社の理想」を近未来に実現するための立命館大学発ベンチャー企業です。人機社の理想とは「あまねく世界からフィジカルな苦役を無用とすること、人機社の使命とは「マンマシンナジーエフェクタを社会実装し、人が力学を自在に操るプラットフォームを確立することです。見た目だけで力学的機能を持たないオモチャロボットではなく、本当に役に立つ力学的機能を備え、人の身体能力を拡張する本物のロボット「マンマシンナジーエフェクタ」を実現するために、力を貸してください。

求 人 条 件

【必須条件】

- ・人機社の志を共有できる方
- ・ロボットの社会実装のために地道な努力のできる方(ロボットに妙なロマンを持たない)
- ・滋賀県草津市でのフルタイム勤務可能な方

【歓迎条件】

- 以下のいずれかのスキルを持っていることが望ましい。
- ・ロボット工学、機械工学、電気・電子工学、力学
- ・機械設計、工業デザイン(特に自転車・自動車・航空機などの移動体)、CAD(SolidWorks)
- ・電気・電子回路設計
- ・プログラミング(LabVIEW、MALAB/Simulink、Blender)
- ・財務、法務、労務、税務、会計、秘書、知的財産管理
- ・事務、文書作成一般(Mac、Word/Excel、Keynote、Illustrator、HTML、LaTeX)

株式会社 FiNC

職 種 ライフサイエンス事業担当

主な仕事内容

株式会社 FiNC は「一生に一度のかけがえのない人生の成功をサポートする」を企業理念に掲げ、予防領域に特化したモバイルヘルスケアベンチャーです。ライフサイエンス事業担当として、健康関連調査結果の解析、レポート作成や健康増進に係るエビデンスの収集(先行研究/ガイドライン等のサーチ、実証研究の推進)を担当していただきます。

求 人 条 件

- ・ヘルスケア下記分野における専門知識
製薬、医療、栄養、行動科学、産業保健、等
- ・MS-EXCEL によるデータ処理能力
(vlookup 関数、ピボットテーブル、グラフ作成)
- ・MS-POWER POINT、MS-WORD による資料作成能力

ナノサミット株式会社

職 種

研究員：化学系、電気系統、キャパシタバッテリーの開発・生産

主な仕事内容

- ナノサミット株式会社は、ナノ素材で世界の機能性材料の頂点を目指し、材料革命による新たな未来を創造する会社です。
- ・カーボンナノチューブ (CNT) に関する調査及び研究
 - ・カーボンナノチューブ (CNT) に関する特許権の管理、運用及び維持等
 - ・カーボンナノチューブ (CNT) の分散に係る各種材料の研究及びその材料の製造販売
 - ・カーボンナノチューブ (CNT) の分散品及びその加工品並びに各種材料との複合品の製造販売 上記に付帯する一切の事業
 - ・キャパシタバッテリーの開発・生産
 - ・ナノ材料の開発・生産
 - ・研究開発
 - ・お取引先企業との折衝

株式会社 DG TAKANO

職 種

研究開発職

主な仕事内容

当社は卓越した金属加工技術と科学的なアプローチにより、水量を約 90%削減しながら高い洗浄力を発生させる脈動式節水洗浄ノズル「Bubble90」を開発しました。世界の水資源の生産性向上に貢献するとして、「超」モノづくり部品大賞で、ベンチャー初の大賞を受賞しています。来年度より社長直下の研究開発チームを立ち上げ、異分野の研究者たちとともに自由な発想で地球環境の問題解決に向けた研究開発を開始します。働きたいベンチャー企業ランキング 1 位に輝く当社で独創的な製品を生み出しませんか？

株式会社かずさゲムテクノロジーズ

職 種

新規事業開発・企画、フィールドテクニカルサポート

主な仕事内容

- ・かずさ DNA 研究所の技術シーズを元にした新規事業開発、企画
- ・かずさゲムテクノロジーズ製品に関する技術サポート
- ・新規細胞工学事業の立ち上げ
- ・マーケティング活動

株式会社メタジェン

職 種

主任研究員、バイオインフォマティクス スペシャリスト

主な仕事内容

腸内環境をデザインするリーディングカンパニーです。慶應義塾大学および東京工業大学の研究分野で培われた確かな解析技術、メタボロゲノミクス™により腸内環境を評価致します。医療・バイオ系サンプルの分析や統計科学的解析、データベース開発や疫学調査・医療情報のデータマイニング、およびシステム開発、バイオインフォマティクスの導入支援・教育・コンサルティングを行います。以下の業務で力を発揮していただきます。

主任研究員

- ・次世代シーケンサーを用いた腸内細菌叢のメタゲノム解析
- ・質量分析計を用いた腸内細菌叢のメタボローム解析
- ・嫌気性細菌の分離・培養
- ・研究マネジメント

バイオインフォマティクス スペシャリスト

- ・メタゲノム解析、メタボローム解析のための解析パイプライン構築
- ・メタゲノムデータ、メタボロームを含む多変量データのデータベース構築
- ・計算機環境を含む情報解析インフラの構築

求人情報の詳細に関するお問合せ、応募はメールにて承っています。

研究キャリアの相談所(運営：リバネス)

<https://r.lne.st/career/career@leaveanest.com>

担当：上野（東京本社）、磯貝（大阪事業所）

incu・be セミナー 第4回

博士が異分野の企業で働くってどんな感じ？

研究キャリアの最新動向や多様性を知る、自身のキャリアについて改めて考える、そんなきっかけをみなさんに提供したいと考え、学部・院生のための研究キャリア・就活情報誌『incu・be』はセミナーも開催しています。

今回は、P21 に登場の、荒川竜太さんをゲストにお招きします。企業で活躍できる研究者とは？自分の専門分野は異分野の企業で活かせるのだろうか？そんな疑問に対して、建設企業で活躍する農学博士である荒川さんを交えてディスカッションします。多様なキャリアを切り拓くヒントが見つかるはずです。

■ 日 時：2017年4月2日(日) 15:30～17:00
(日程が変更になる可能性があります)

■ 場 所：株式会社リバネス 知識創業研究センター
東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル4階

■ 内 容：講演および座談会

■ 講演者：荒川竜太さん

■ 対 象：大学院生(修士・博士課程)、ポスドク、企業の研究開発職の方など

■ 参加費：無料



申込： <https://r.lne.st/2017/02/19/incu-be-seminar4/>

意志のある一歩が未来を拓く 研究応援プロジェクト



第36回 リバネス研究費 募集要項発表!!

池田理化再生医療研究奨励賞

対象分野
ESC、iPSC、MSC等の幹細胞やその他の細胞を用いたヒト臨床を伴わない研究

※再生医療の基盤を構築する上で必要な基礎研究（分子細胞生物学、細胞生物学、発生工学、組織工学、材料工学等）、再生医療の実現に必要な細胞製造・加工プロセスに関わる基盤技術研究、創薬技術への利用や病態解析等の応用研究の他、ここにはない新規のアイデアも対象とします。

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2017年4月30日（日）24時まで


細胞治療や再生医療、遺伝子治療などの医療技術の発展には様々な分野の研究や技術開発が必要であり、またそれらの研究から疾患のメカニズム解明や、創薬支援技術への応用など、様々な方向への発展が期待されています。池田理化は理化学機器の専門商社としてこれらの研究のお手伝いを行っておりますが、若い研究者の可能性を広げる取組みとして始めたこの池田理化賞も今年で4回目となりました。毎年10月に開催されるアフターイベントは、著名な先生方と直接意見交換ができるチャンス!?新しい研究を始めるチャンスとして是非ご活用ください!

海底探査推進特別賞

対象分野
全海底地形図の作成に資する全ての研究
採択件数 5件程度

助成内容 研究費50万円

申請締切 2017年4月30日（日）24時まで


海底地形の100%解明を目指し、リバネスは日本財団とともに海底探査のための革新的技術の開発を支援する「海底探査技術開発プロジェクト」を立ち上げます。本研究費はそれに先立ち、潜水機、船舶、航空機、人工衛星等に搭載するセンサーや、海底探査のための運用技術（自動操縦等を含む）、データ解析により地形図を詳細化する技術、またはそれらを統合して広範な海底地形図を作成するプロジェクト研究のアイデア等、海底地形の100%把握の実現に資するあらゆる研究を募集いたします。募集期間終了後、速やかに審査と採択者への研究費支払いを行いますので、共同研究者や企業との議論のための交通費等に活用し、壮大な構想を練り上げてください。

クラレ賞

対象分野
3次元細胞培養プレートElplasia®（エルプラシア）を用いた研究テーマ

※Elplasia®は、1ウェル内に10²μmオーダーのマイクロ空間を有する3次元細胞培養プレートです。今回の研究費では、Elplasia®を用いた研究テーマを募集いたします。

採択件数 1件

助成内容 研究費上限50万円および3次元細胞培養プレートElplasia®の無償提供（数量は応相談）

申請締切 2017年4月30日（日）24時まで

URL <http://www.elplasia.com/>


株式会社クラレでは、種々のマイクロ構造のデザインが可能という成形加工技術を活かし、3次元細胞培養プレートElplasia®を開発・販売しております。弊社の培養プレートは、①均一なスフェロイドを、②一度に大量に作製可能であることを特長としております。再生医療、創薬研究を問わず、3次元細胞培養にご興味をお持ちの方からのご応募をお待ちしています。Elplasia®の活用例：各種細胞（幹細胞、癌細胞、〇〇細胞等）のスフェロイドの基礎評価、用途評価（創薬スクリーニング、アッセイモデル、再生医療など）、パターンニング培養など。

超異分野教育賞

対象分野
未来の教育の実装に向けたあらゆる分野の研究

※教育学はもちろんのこと、それ以外の分野からの申請もお待ちしております。

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2017年3月31日（金）24時まで

URL <https://lne.st/leri/>


リバネス教育総合研究所は、変化の激しい時代を生き抜くために必要な「未来の学び」について研究し、社会実装する研究所です。このミッションを達成するには、これまでの教育学的手法に加え、異なる分野の研究者が教育研究に参画することが必須であると私たちは考えています。統計科学と教育評価、脳科学と学びの方法、工学と新規教材、建築と学びの空間デザインなど、異分野の融合により、共に未来の教育を創っていくための研究を募ります。採択者は研究のフィールドとしてリバネスのもつ教育現場のネットワークを活用していただくことも可能です。

リバネス研究費とは、「科学技術の発展と地球貢献の実現」に資する若手研究者が、自らの研究に情熱を燃やし、独創性を持った研究を遂行するための助成を行う研究助成制度です。本制度は「研究応援プロジェクト」の取組みの一環として運営されています。

● 留学生賞

対象分野

自然科学、社会科学、人文科学分野のあらゆる研究

※日本に来ている留学生の方々対象

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2017年4月14日(金) 24時まで

URL <https://r.lne.st/grants/>

担当者
より
一言

本国とは異なる場所で新たな研究にチャレンジしている留学生の方々を応援したい、そんな想いから日本で研究活動を行っている留学生の方を対象とした研究費を設置しました。申請書は英語での記載も可能です。

This grant is for international young researchers in Japan. We understand they may face a lot of hardships in studying in the unfamiliar environment. We would like to support such tough researchers. If you are an international student in Japan, and you have strong passion to progress your research, please apply for our grant!

● L-RAD賞



対象分野

自然科学、社会科学、人文科学の研究、開発、調査全般

採択件数 2017年3月1日より2017年5月31日までにL-RADに登録された申請書の中から若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2017年5月31日(水) 24時まで

URL <https://l-rad.net/>

担当者
より
一言

オープンイノベーションの活性化により公募型の競争的資金が増えつつあることは喜ばしいことである一方、目的や研究費規模、期間、雛形に合わせて申請書を書き換える時間が必要となり、研究時間を圧迫するという側面があります。L-RADは、せっかく作った申請書にセカンドチャンスを提供することを目指しています。今回のL-RAD賞は過去ご作成頂いた研究プランの一部を推進することで構いません。そのままの申請書をL-RADにご登録下さい。中長期的な視点で、各種産業応用に強いインパクトが見込めると考えられるテーマを助成致します。

採択者発表

第33回 Pall ForteBIO賞

採択者 宮房 孝光 産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門

研究テーマ 抗体医薬品製造工程管理のための培養液中の異常構造抗体の定量

第33回 L-RAD賞

採択者 喜納 克仁 徳島文理大学 香川薬学部 准教授

研究テーマ G→C点突然変異を誘発する、立体障害が小さいグアニン酸化損傷の特定

採択者 三輪 秀樹 Harvard medical school, Boston Healthcare System, West Roxbury Department of psychiatry, visiting assistant professor

研究テーマ スピンドル波発生とその生理的意義

リバネス研究費の登録および採択情報はこちらから
<https://r.lne.st/grants/>



研究経験を活かしたビジネスに挑戦したい方募集!

株式会社リバネスのインターンシップ

研究をしていてこんなことを思ったことはありませんか? 「自分の研究の魅力ってどうしたら他人にもわかりやすく伝わるだろう」。「研究ばかりやっていてビジネス経験がないけど、学生のうちに企業に触れてみたい」。そんなあなたの想いを実現できるのがリバネスのインターンシップです。毎週日曜日、あなたの研究経験と情熱を活かしたビジネスに、一緒に挑戦してみませんか?

Q インターンシップに参加したらどんな活動ができますか?

A 参加できるプロジェクト例をご紹介します。

実験教室の企画・運営

研究の魅力を語る出前実験教室を企画・運営します。インターン生を中心にプロジェクトチームを組み、企画の開発、小中高生とのサイエンスコミュニケーションに挑戦できます。



雑誌・書籍制作

記事の企画から、最先端の研究者や企業への取材、記事執筆までを行うことで、論文作成とは一味違うサイエンスライティングの力が鍛えられます。



次号制作メンバー募集中です

新規企画立ち上げ

その他、インターン生からの新しい企画の立ち上げも歓迎しています!

【現在進行中!】

- ・自分の専門を生かした実験教室
- ・異分野をつなぐセミナー企画
- ・中高生向け学会での企画運営



Q インターンシップに参加するには?

A 研究室との両立ができるよう、リバネスのインターンは週1回、毎週日曜日に開催しています。いつからでも参加可能ですので、まずは一度見学に来てみませんか?

インターンシップ参加申込・問い合わせ <https://lne.st/recruit/internship/>

【インターンシップ募集要項】

参加期間: 半年以上2年以内、基本的に毎週日曜日に参加できること

参加者: 修士課程・博士課程の学生、その他(学部3年生以上を推奨)

開催場所: リバネス東京本社/リバネス大阪事業所

給与: 取材・雑誌媒体への記事制作費/実験教室当日の人件費・交通費のみ支給

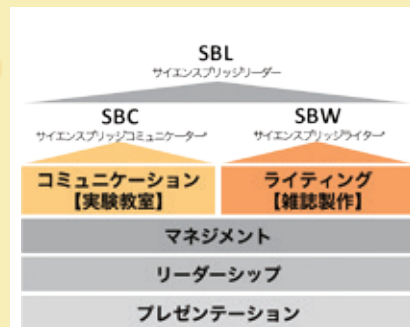


これからの研究者に必須の力を身につける!

リバネスのインターンに参加して
「サイエンスブリッジリーダー (SBL)」を目指せ

科学技術を学んだ人が、科学技術を活かして世の中に貢献していく人材になるためには、世の中に對して独自の課題意識をもち、主体的に行動していくことで課題を解決していける力が必要です。株式会社リバネスでは、科学を軸に、社会の課題を自ら見つけ、新しい価値を生み出すことのできるリーダー人材を「サイエンスブリッジリーダー (SBL)」と位置付け、独自に認定しています。

リバネスのインターンシップに参加することで、科学技術をわかりやすく伝えるスキルとともに、プレゼンテーション・リーダーシップ・マネジメント・コミュニケーション・ライティングの各種スキルを、実験教室や雑誌制作といった実地研修、および座学研修を通して鍛えることができます。認定要件をすべて満たし、面接を経ると「サイエンスブリッジリーダー (SBL)」の資格を得ることができます。



6月よりサイエンスブリッジリーダー育成講座2017年前期座学講座を開講します

<https://r.lne.st/2017/02/06/sbl-first/>



世界を**変**える 研究者を**増**やす リーダー

戸金 悠 (2016年3月 SBL 取得)

小さい頃から生き物が好きだったという戸金悠さん。大学で生命科学の分野に進むことは自然な流れだったという。自分が好きな生き物の面白さを伝えたいと思い、一度は科学教育の道を目指すのが、本当にやりたいことはここではないことに気づいた。生き物の面白さから、それを追究する人の面白さに気づくまでの道のりに迫る。

「生き物の面白さを伝えたい」は 思い違いだった

大学、大学院ではショウジョウバエの脳の発生に関する研究を行っていた戸金さん。研究を続けていく中で、生き物の細胞1つ1つが実に巧妙に働き、ミスが起こってもそれを補う仕組みすら持っていることを知り、生命の神秘を感じたという。「生命科学がこれだけ発展しているにもかかわらず、まだわかっていないことがたくさんあることも面白い」と語る。この面白さをもっと次世代にも伝えたいと思い、中高生向けに出前実験教室を行うリバネスのインターンシップへ参加を決めた。実験教室を通じて、自分の言葉で子どもたちが生き物に興味を持ってくれる姿を見て、これこそが自分がやりたいことだと思った。「でも僕は思い違いをしていたんです」と戸金さんは振り返る。たくさんの実験教室を経験していくなかで、同じ言葉を投げかけても子どもによって興味を持つポイントが異なることに気づいたのだ。「僕は自分が面白いと思う生き物の魅力を伝えようとしていた。でも子どもたちそれぞれが本来持っている興味を引き出すことこそが重要なんだと気がついたんです」。

1人1人が持つ興味と、 それを追究する力が世界を変える

転機を与えてくれたのは、企業で働く研究者との出会いだった。リバネスでは、新しいビジネスアイデアを生み出すことができる人を育てるためのプログラムがある。そこでは、日頃仕事に追われていると忘れてしまいがちな、企業研究者が内に秘めている情熱やアイデア、実は興味を持っているものを掘り起こし、それを基にビジネスプランを作り上げていく。「たくさんの企業研究者と話す中で、会社としては採算が合わないし時間もないから諦めていたけど、本当はやりたいことがあるんだと熱く語る人たちに出会った。研究者が秘めているパワーを感じたんです」という。研究者とは、自分が興味を持った課題に対して、徹底的に追究する力を持っている人のこと。1人1人が興味を持った課題が、1つずつ解決されていけば、その積み重ねが最終的には世界を変える力になる。「大切なのはその人の興味を引き出し、それを追究する場があること。実験教室で子どもたちから教わったことがつながった瞬間だった」。

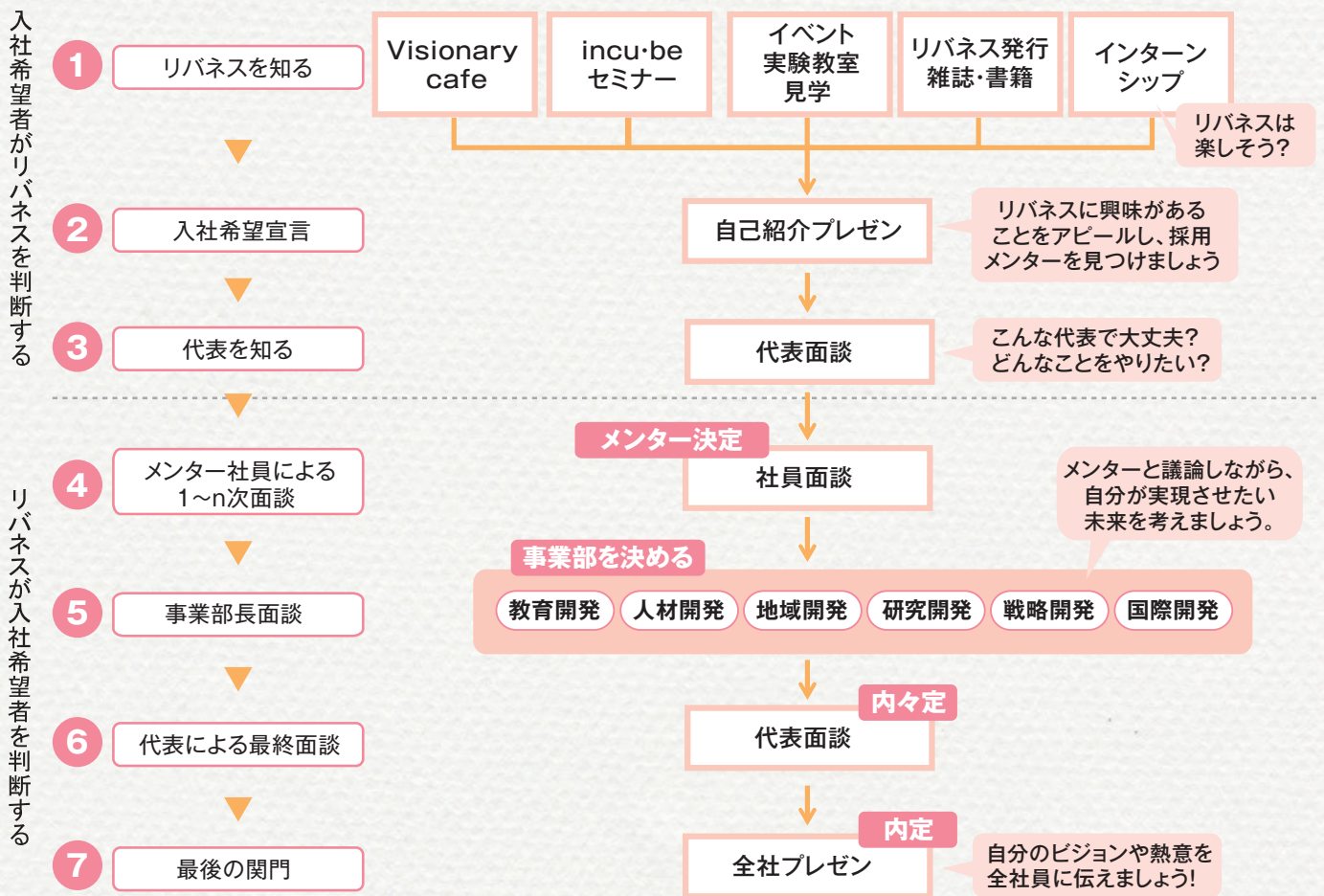
地域の中で研究者が産業を生み、 人を育てる循環をつくる

「研究者が自分の興味を追究することで世界を変えていくことができる、そんな世界をつくりたいんです」と語る戸金さんは今、日本の地域活性化を研究者の力で実現しようとしている。地域を活性化させるためには、その土地に新しい産業を生み出すためのサイクルが必要となる。そこで、徳島大学の研究者が自分の研究を活かして、ビジネスを生み出すためのサポートに今取り組んでいる。自分のやりたいことを言語化するまでにすごく時間がかかったと戸金さんは振り返る。しかし、明確になってからというもの、関わる人、関わるプロジェクトが自分にとってどういう意味があるのか考えるようになり、それが楽しくなったという。「いずれは、大学から生まれたベンチャー企業とともに、その企業が持つ科学技術を子どもたちに伝える実験教室をしたいんです」。研究者が新たな産業を地域に生みながら、次世代の研究者を育てる。このサイクルがうまく回り出したとき、戸金さんが描いていた世界の実現が一步近づくことだろう。

株式会社リバネス 入社までの道のり

株式会社リバネスでは、私たちの仲間になっていただける方を募集しております。専門分野の知識や研究経験を武器に、未来の社会を自らの手でつくっていききたい、そんな想いを持ったあなたのご応募をお待ちしています。

リバネスの仲間になるまで



● リバネスの人材募集の特徴 ●

- 就職サイトには載っていません。
リバネスと出会う機会は多種多様。大学の講演で、キャリアイベントで、インターンシップで、そしてもちろん『incu・be』で。あなたとの運命の出会いを待っています。
- いつでもアクセス OK です。
「就職活動」という言葉で括られた、期間限定の自分探しでは本当にやりたいことは見つからない、と考えています。だからリバネスの採用面談はいつの時期でも受けられます。気軽に連絡をしてください。
- 何度でもチャレンジできます。
採用面接は何回でも受けられます。役員や社員と何度も話し合う過程を通じて自分の実現したいことが明確になっていきます。あきらめたら試合終了。粘り強い科学への想いがある人がリバネスに参加します。

採用ページはこちら：<https://lne.st/recruit/>

募集人材 人材開発事業部

世の中の課題に自ら取り組むリーダー人材の育成に貢献したい人募集!

■なにをやっているのか

世の中の課題解決に自ら取り組むリーダー人材を育てる、サイエンスブリッジリーダー育成講座を自社のインターンシップの他、大学、企業の研修として導入しています。

■なぜやるのか

疑問を持つ力や自ら実装する力、そして自分が描くビジョンを伝える力を研究経験を通して身につけ、社会でリーダーとして活躍する研究者をもっと増やしていきたいと考えているからです。

■担当者の一言

人材開発事業部 上野裕子
毎年100人近くの学生、社会人の成長の場づくりに関わっています。誰かのために、何かのために自分を成長させたい、と考えられる人は強いです。あなたも一緒に成長しましょう!

第18回 Visionary Cafe (東京開催)

何かに「熱」を持って取り組みたいと思っている方、個性豊かな役員に自分の意見、世界を変えるアイデアなどぶつけてみませんか?

日時：4月23日(日)10:30~13:00(11:45よりランチ)

場所：リバネス知識創業研究センター

(東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル4階)

参加費：1000円(ランチ代)

第2回 Visionary Cafe (大阪開催)

日時：4月16日(日)10:30~13:00(11:45よりランチ)

場所：リバネス大阪事業所 セミナー室

(大阪府大阪市中央区北浜1-5-7 北浜MDビル3階)

参加費：1000円(ランチ代)

申し込み

<https://r.lne.st/2017/01/27/visionary-cafe18/>



学部・院生のための研究キャリア・就活情報誌『incu・be』とは

『incu・be』は、研究の世界へ踏み出した大学生・大学院生・ポスドクに対して、研究経験が活きる「研究キャリア」を歩んでほしいというメッセージを込めて、2007年6月に創刊しました。研究者や、研究経験を活かした分野で活躍する人々のインタビュー記事、研究活動を支援する有用情報を掲載した雑誌として、毎月4万部を全国理工系大学の研究室などに年4回、配布・設置しております。

研究応援教員とは

研究応援教員とは、学部・院生のための研究キャリア・就活情報誌『incu・be』の配布にご協力いただいている先生方です。年4回、希望部数を無料で送付いたします。また、希望者へはリバネス研究費や研修の情報を毎月メールにて送付させていただきます。

『incu・be』の配布・設置について

『incu・be』は、全国の理系大学・大学院の学生課・就職課・キャリアセンター等で配布しております。また、Amazon ならびに全国書店にてご購入いただくことができます。学校単位での配布・設置をご希望の場合、またその他お問い合わせは下記までご連絡ください。

お問い合わせ先

株式会社リバネス 人材開発事業部 incu・be 編集部
Tel : 03-5227-4198
Fax : 03-5227-4199
E-mail : incu-be@lne.st

研究応援教員を募集しています！

研究応援教員になるとこんなメリットがあります

- 『incu・be』を無料でお届け
- リバネス研究費や研修の最新情報をメルマガにてお届け

下記の登録フォームに、ご希望の『incu・be』部数とメルマガ登録の有無をお知らせください。

研究応援教員 登録フォーム：<https://r.lne.st/professor/>

研究応援教員 (敬称略)

402名

【愛知学院大学】市原啓子
【会津大学】寺菌淳也
【藍野大学】外池光雄
【麻布大学】滝沢達也
【茨城大学】木村成伸、鈴木健仁、中村麻子
【医薬基盤・健康・栄養研究所】米田悦啓
【岩手県立大学】山本健
【宇都宮共和国】須賀英之
【宇都宮大学】糸井川高穂
【江戸川大学】福田一彦、浅岡章一
【大阪市立大学】保壽隆享、中臺枝里子、長崎健、蔡凱
【大阪工業大学】河村耕史
【大阪大学】杉本直昭、中野貴由、森勇介、村田亜沙子、瀨恒謙太郎、笹野佑、森島圭祐、久武信太郎、大竹文雄、佐藤尚弘、梶原康宏、関修平、井上克郎、岡本行広
【大阪電気通信大学】小枝直直、鄭聖熹
【大阪府立大学】中野長久
【沖縄科学技術大学院大学】森田洋平
【学習院大学】清末知宏
【神奈川大学】衣笠竜太
【神奈川工科大学】白井暁彦、岡崎昭仁
【金沢大学】郡山恵樹
【関西医科大学】金子一成
【関西学院大学】巴波弘佳
【関西大学】河原秀久、片倉啓雄、工藤宏人
【基礎生物学研究所】倉田智子
【九州大学】近藤哲男、中村大輔、清水邦義、吉村淳
【京都学園大学】松原守
【京都工芸繊維大学】津吹達也
【京都大学】奥野恭史、河井重幸、篠原真毅、中野伸一、前野悦輝、富田良雄、寶馨、原田慶恵、土居雅夫、小野正博、山口栄一、今村公紀、大関真之、森和俊、平竹順、大日向耕作、川本純、遠藤求、浅見耕司
【京都府医科大学】小野勝彦
【京都府立大学】高野和文
【近畿大学】生塩研一
【熊本大学】杉本学
【群馬大学】北村忠弘
【慶應義塾大学】藤本啓二、中西泰人、犀川陽子、大前学、竹村研治郎、久保健一郎
【県立広島大学】阪口利文
【高エネルギー加速器研究機構】大谷将士
【工学院大学】長谷川浩司
【高知大学】小島優子
【甲南大学】久原篤
【神戸大学】森垣憲一、影山裕二、新矢恭子
【国際基督教大学】布柴達男、小林牧人、久保謙哉
【国立遺伝学研究所】有田正規
【国立環境研究所】中島英彰、一ノ瀬俊明
【国立感染症研究所】有田峰太郎
【埼玉県立大学】国分貴徳
【埼玉大学】長谷川有貴
【国立成育医療研究センター】要匡
【産業技術総合研究所】高島一、小関義彦、宮崎真佐也、三輪洋靖、藤原すみれ、長谷川良

平
【静岡大学】田中滋康、竹内浩昭、成川礼
【自然科学研究機構】小泉周
【島根大学】荒西太士
【首都大学東京】岡部豊、小町守、住吉孝行
【城西大学】片倉賢紀
【上智大学】早下隆士、岡田仁孝
【信州大学】片岡正和
【成城大学】境新一
【摂南大学】白鳥武
【総合研究大学院大学】本郷一美、五條堀淳
【創価大学】伊藤佑子
【玉川大学】木村真、佐藤久美子
【千葉大学】後藤英司、大武美保子
【中央大学】中村太郎、船造俊孝、谷下雅義、山田正、楠田祐
【筑波大学】濱健夫、足立和隆、岩田洋夫、鈴木石根、永田毅、岡部佳弘、小林正美、渡辺知恵美
【帝京大学】横村浩一、黒沢良夫
【電気通信大学】來住直人、中野圭介、川端勉
【東京医科大学】守田優子
【東京医科歯科大学】木村彰方、鏗田武志
【東京海洋大学】竹内俊郎、戸田勝善、神田穂太、廣野育生、岡本信明
【東京工科大学】佐々木和郎
【東京工業大学】太田啓之、西條美紀、長谷川晶一、因幡和晃、猪原健弘、関嶋政和、川本思心、有坂文雄、太田啓之
【東京工芸大学】西宮信夫、森山剛、細萱敦、三浦剛
【東京大学】菅裕明、合原一幸、小柳津広志、中須賀真一、神崎亮平、植田一博、黒田真也、小河正基、藤垣裕子、金子知適、金井崇、山口泰、金子邦彦、吉田丈人、坪井久美子、前田京剛、豊島陽子、吉田朋広、寺仙友秀、河澄響矢、稲葉寿、齊藤宣一、河東泰之、儀我美一、酒井邦嘉、堅田利明、村田茂穂、船津高志、井上将行、安藤恵理子、加藤孝明、半場藤弘、平川一彦、小野瀬佳文、渡邊雄一郎、新井宗仁、豊田太郎、吉本敬太郎、近藤豊、西成活裕、岡本晃充、森川博之、油谷浩幸、松永行子、小林徹也、松田良一、桑野玲子、枝川圭一、ビルデマーカス、三浦正幸、星野真弘、横山央明、日比谷紀之、大口敬、横井秀俊、野城智也、中村泰信、村上智一、岡部徹、森田一樹、堤敦司、沖大輝、矢作直也、牧野義雄、五十嵐健夫、中村尚、嶋田透、白松知世、大島研郎、原田香奈子、池川隆司、池尻良平、坪井貴司、太田邦史、相田卓三、吉川暢宏、大島まり、松尾泰、木下健、開一夫、福田裕穂、野口祐二、塚本久美子、村田滋、石井直方、道上達男、楠岡成雄、河野俊文、有岡学、大石恵章
【東京電機大学】長原礼宗、世良耕一、大西謙吾、岩瀬将美
【東京農業大学】坂田洋一、夏秋啓子、中西康博、相根義昌、志和地弘信、井形雅代
【東京農工大学】夏目雅裕、大野弘幸、菅後一、佐藤令一、新垣篤史、金承鶴
【東京薬科大学】太田敏博、都筑幹夫
【東京理科大学】朽津和幸、武田正之、越地耕二、

島田浩章、徳永英司、金子敏宏、山本誠、梅村和夫、諸橋賢吾、篠田陽、橋本卓弥
【同志社大学】小寺政人、太田哲男、石浦章一
【東邦大学】岸本利彦
【東北大学】五十嵐太郎、鈴木高宏、高橋富男、山崎翔平
【東洋大学】下村講一郎
【鳥取環境大学】足利裕人
【鳥取大学】押村光雄、久郷裕之
【富山大学】杉森道也
【富山県立大学】古澤之裕、立田真文
【豊橋技術科学大学】後藤尚弘
【名古屋産業大学】伊藤雅一
【名古屋大学】村瀬洋、河野廉、森典華
【名古屋文理大学】長谷川聡
【奈良県立医科大学】大野安男
【奈良女子大学】遊佐陽一
【奈良先端科学技術大学院大学】別所康全、駒井章治
【新潟大学】藤村忍
【日本医科大学】若林あや子
【日本女子大学】宮崎あかね、今市涼子
【日本大学】野呂知加子、宮崎康行、高橋芳浩、畔柳昭雄、遠藤央、佐甲徳栄、福田昇、浅井朋彦、渡邊泰祐、有坂文雄、伊藤賢一、島山吉則
【農研機構花き研究所】大坪憲弘
【光産業創成大学院大学】瀧口義浩
【兵庫県立大学】藤原義久
【広島大学】江坂宗春、実岡寛文、坂田省吾、田川訓史、兼松隆、西堀正英、長沼毅
【福井大学】沖昌也
【防災科学技術研究所】大石恵章
【法政大学】鍵和田聡、新井和吉、杉戸信彦、大島研郎、小池崇文
【北海道医療情報大学】西平順
【北海道科学技術総合振興センター】本間直幸
【北海道大学】山中康裕、住友彦彦、笠原康裕、樋口直樹、山本拓夫、日野友明、河西哲子
【三重大学】松岡守
【宮崎大学】林雅弘、明石良、山崎有美
【武庫川女子大学】升井洋至
【武蔵野大学】荒木義修
【明治大学】矢野健太郎
【山形大学】永井毅、綾部誠
【横浜国立大学】中村達夫、向井剛輝、金子信博、小倉里江
【理化学研究所】工藤樹洋、篠崎一雄
【立教大学】関根靖彦、山田康之、上田恵介
【立命館大学】西浦敬信、山下茂
【琉球大学】徳田岳、浦崎直光、外山博英、嬉野健次、荒川雅志、大角玉樹、瀬名波出、松本剛、久保田康裕、新里尚也、岩崎典典、福田雅一、千住智信、與那篤史、赤嶺光
【労働安全衛生総合研究所】久保智英
【早稲田大学】田中宗、本間敬之、田原優、田中幹人、尾形哲也
(平成29年1月31日現在)

人材応援プロジェクト発足!

博士・ポスドクのための

キャリア開発助成金 開始!

2017年3月31日 締切
200名採択

研究者として能力を開発していきたい。研究者としてのキャリアを開発していきたい。
そう願うすべての、博士課程学生・ポスドクの方のために「キャリア開発助成金」を立ち上げます。

「博士課程まで進むと就職の門が狭くなる」、「ポスドクになると短期雇用のサイクルから抜け出せなくなる」。博士課程進学者には将来への不安がつきまといまいます。それでも研究が好きで、研究者としてステップアップし続ける意欲のある研究者の卵を応援し続けるため、キャリア開発のための2万円の助成を200名の方に行います。

- 募集要項**
- 【対象】 40歳以下の博士課程後期の学生、ポスドク、特任等有期雇用の研究者 ※分野は問わない。
 - 【助成金額・件数】 2万円／1件。全200件。
 - 【締切日】 2017年3月31日(金) 24時
 - 【申請ページ】 <https://r.lne.st/cds/>
 - 【助成金の使途】 旅費交通費、研修費、書籍代等、キャリア開発のために必要な費用に充当ください。企業訪問、イベント参加、学会参加、勉強会企画などの活動を支援することを想定しています。
 - 【その他助成内容】 「研究キャリアの研究所」のキャリアコンサルティングの無料提供
Career Discovery Forum 2017(詳細はページ下部)への参加権



お問い合わせ
応募要項はこちら

“研究を続ける道”を探れ!

Career Discovery Forum 2017

キャリアディスカバリーフォーラム2017

- こんな人が対象です!
- ・研究成果の社会実装に興味がある
 - ・研究キャリアにもやもやとした不安を抱えている
 - ・チャレンジしたい研究アイデアがある

アカデミア志向の研究者は多いと思います。しかしながら科学技術の社会実装に挑戦している企業の研究を知ることで、研究者の多様な活躍の場が見えてくることでしょう。必要なのは、あなたの研究に対する熱いパッションだけ。あなたの熱い思いをともに実現したいと考えている企業の研究者たちと、就職、共同研究、企業での研究など、大いにディスカッションできる場が Career Discovery Forum です。

- 開催概要**
- 【日時】 2017年6月24日(土) 10:00-18:00 主催:株式会社リバネス
 - 【会場】 日本科学未来館 未来館ホール(東京都江東区青海2-3-6)
 - 【特設ウェブページ】 <https://cdf.lne.st/> 申込:事前予約制(個別面談)
 - フォーラムパートナー企業:三井化学株式会社、日本たばこ産業株式会社
その他続々参加予定



お問い合わせ
お申し込みはこちら